

北海道における経営基盤強化に向けた取組と見通し

第1 基本的な考え方

北海道の競馬事業は、これまで様々な改革に取り組んだ結果、平成 25 年度以降単年度収支が黒字化し、施設整備等に向けた基金を積み立てるとともに、一般会計への借入金返済を継続してきた。

門別競馬場は、馬産地に立脚した競馬場として雇用や地域経済への寄与のみならず、全国への競走馬の供給や馬産地のセーフティネットとしての役割を果たしていることから、今後も収益を確保しながら競馬事業を安定的に継続していくことが重要である。

冬期間に競馬を開催できない北海道の競馬事業を安定的に運営していくためには、「道営競馬の発売」と「他主催者競馬の発売」を車の両輪として収益確保を図っていく必要がある。

また、門別競馬場内のきゅう舎や関係者の住居等は老朽化が著しく、安全性・公正性の確保や効率的な競馬の実施、減少傾向が続く騎手やきゅう務員確保の観点からも、老朽化した基幹施設の再編整備が急務となっている。

こうした状況の下、新たな競馬活性化計画の達成に向けては、ホッカイドウ競馬の持続的発展を目指して策定した「第3期北海道競馬推進プラン」（計画期間：令和3年度～令和7年度）と整合を図りつつ、競馬活性化計画に基づき、競走体系の整備や強い馬づくりにより競馬の魅力を向上するとともに、特色である2歳馬戦について、インターネットを活用した効果的な広報展開を図り、発売額の向上を目指す。

その上で、きゅう舎をはじめとする基幹施設の再編整備や競馬関係者の担い手確保など競馬事業の安定的な運営に必要な取組を着実に推進し、売上の向上と収益の確保により経営基盤の強化を図る。

第2 目標

北海道は、きゅう舎・調教施設の計画的な整備等による強い馬づくりと競走体系の整備を進め、お客様に楽しんでいただける魅力あるレースを実施するなど地方競馬の活性化に資する方策に連携して取り組むことで売得金を向上させ、事業収支の改善を図るとともに、不測の事態等にも備えて経営基盤を強化する。

その上で、競馬活性化計画期間を通じて継続的に累積債務の返済を行い、令和9年度の累積債務の返済額を売得金額の1.7%以上とすることを目標とする。

第3 競馬事業に関する経営基盤の強化の程度を示す指標

令和3年度の事業収支状況等を基に、計画目標年度となる令和9年度に次の指標を達成するものとする。

- ① 売得金（場間場外及び電話・インターネット投票も含めた全体の売上）を対前年度比平均2.0%以上向上させ、収益額を2.6%以上増加
- ② 施設整備を計画的に実施し、耐用年数超過割合を70ポイント以上低減
- ③ 不測の事態等に備え、競馬を再開するまでに必要な経費として活用可能な基金、繰越金等（3か月分の競馬事業支出の固定経費相当額以上）を確保

第4 目標達成に向け実施する主な取組

1 競走体系の整備など競走の魅力を高めるために必要な措置

- ・ 2歳短距離戦であるエーデルワイス賞に有力馬を出走させるため、実施時期を10月中旬から11月上旬に後ろ倒しして実施する。
- ・ 北海道スプリントカップは3歳限定戦として6月から8月に移行することで、5月ゴールデンウィークに行われる兵庫チャンピオンシップには馬が仕上がらない冬季休催競馬場所所属馬の出走を誘導する。
- ・ ブリーダーズゴールドカップの実施時期を8月中旬から9月上旬に移行することで、10月のレディスプレリュードから秋の牝馬頂点競走に位置付けるJBCレディスクラシックへ出走させるためにスムーズなローテンション間隔を設定する。
- ・ これらの競走に自場所所属馬だけでなく、他場所所属馬が出走する環境を整えるため、門別競馬場所所属以外の馬にも特別出走奨励金を付与する。加えて、より高い国際格付けの取得に向け、これらのダートグレード競走を国際競走とするために必要な施設環境の整備を行うとともに、重賞競走体系見直しや賞金・諸手当の増額、必要なレースレーティングの確保を行う。
 - ダートグレード競走出走馬に対する特別出走奨励金の付与
 - 他場所所属馬の出走促進に向けた交流きゅう舎等の整備（令和8～9年度）
 - 重賞競走体系の見直しに伴う本賞金の増額（令和5年度～）
 - 出走手当の引き上げ（令和5年度～）
 - レースレーティングの確保：エーデルワイス賞 96、北海道スプリントカップ 105、ブリーダーズゴールドカップ 101
- ・ また、頂点として位置付けられる兵庫チャンピオンシップに向けた短距離競走の体系整備の観点から、2歳秋及び3歳春において高額賞金の重賞級認定競走（ネクストスター）を新設する。

2 地方競馬の活性化に資する事業

(1) 強い馬づくり等による競馬の魅力の向上

- ・ 在きゅう馬の確保や競走馬の能力向上に向け、競走馬の飼養環境及び調教環境の改善を図るとともに、強い馬づくりの担い手であるきゅう務員及び騎手の確保に向けた労働環境の改善を図るため、門別競馬場のきゅう舎及び住居・業務エリアを再編整備する。
 - 門別競馬場のきゅう舎整備：事業費 81 億円（令和5～9年度）
 - 門別競馬場の住居・業務エリアの再編整備（令和6～9年度）
 - 調教環境改善に向けた内走路改修（令和8年度）
- ・ 強い馬づくりを一層推進するため、屋内調教用坂路の距離延長により機能強化を図るとともに、冬期間における騎手による調教実施を推進する。
 - 屋内調教用坂路の距離延長（令和8～9年度）
 - 冬期騎乗馴致手当の創設（令和5年度～）
- ・ 春先の出走馬確保のため冬期在きゅう馬に対する手当を新設するとともに、有力馬の在きゅう及び出走を促すため、次年度の自場重賞出走を条件として、冬期における他主催者重賞競走出走時の遠征費補助制度を創設する。
 - 冬期在厩3歳馬手当の支給（令和5年度～）
 - 冬期他場重賞遠征費補助制度の創設（令和5年度～）

- ・ 新たな全日本的なダート競走体系の下で、地方競馬所属有力馬の交流競走への出走を促進するため、長距離移動が必要となる地方競馬所属馬が中央及び地方交流競走に参戦しやすい環境整備に向けた施策を検討する。
 - 滞在厩舎の整備など遠方から出走しやすい仕組みの検討

(2) 競馬の魅力の伝達

- ・ ホッカイドウ競馬の魅力や特色を効果的にPRするため、馬産地や情報が少ない2歳馬の紹介、生産牧場や騎手・厩舎、門別競馬場などの情報を盛り込んだインターネット番組を馬産地ならではのゲストを招いて制作・放映するとともに、2歳馬戦を生かした新種牡馬産駒によるレースの実施など魅力ある番組編成を行う。
 - インターネット番組を活用した馬産地の魅力やホッカイドウ競馬のPR（令和5年度～）
 - ホッカイドウ競馬の特色である2歳馬戦を生かした魅力ある番組編成
 - JBC2歳優駿競走の実施を通じたダート競馬の魅力のPR
- ・ インターネット会員のさらなる獲得・定着に向け、インターネット広告やWEBキャンペーンを行うとともに、競馬関連WEBサイトにおいて重賞競走のレース分析などの情報発信を強化し、ホッカイドウ競馬の認知度向上を図る。
 - インターネット事業者や地元等と連携したWEBキャンペーンの実施
 - インターネット購入を支援する情報提供の充実
- ・ 競馬場の魅力を向上するため、門別競馬場の業務用施設の再編と併せて、狭隘なファンエリアを拡大するとともに、ファンエリアに近い位置に来場者駐車場を移転する。
 - 門別競馬場のファンエリア拡大及び来場者駐車場移転（令和6～9年度）
- ・ 地方競馬への理解醸成のため、広報やギャンブル依存症に関する知識啓発を適切に実施する。

(3) お客様の利便性の向上

- ・ レース予想情報が少ない2歳馬戦の注目度向上及び発売拡大を図るため、2歳馬の屋内調教用坂路における調教映像を公式ホームページやインターネット番組を通じて公開・提供する。
 - 2歳馬の屋内調教用坂路における調教映像の提供（令和5年度～）
- ・ ファンサービス向上のため、公式ホームページへの専門誌予想情報の掲載を充実するとともに、ホームページのレイアウトやアクセス環境を改善する。
 - 公式ホームページへの全レース分の専門紙予想情報掲載（令和5年度～）
 - 公式ホームページのレイアウト更新及び回線速度の増速（令和5年度～）
- ・ 場外発売所の移転整備に当たっては、来場者がゆったりと競馬を楽しむことができるよう清潔で快適な空間を構築する。
 - 場外発売所の計画的な移転整備：事業費1.5億円（令和5年度～）

第5 今後の施設整備の見通し

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
総施設数(a)	63	63	63	63	58	58	57
耐用年数超過施設数(b)	48	49	49	50	8	8	3
(割合) (c)=(b)/(a)	76.2%	77.8%	77.8%	79.4%	13.8%	13.8%	5.3%

第6 競馬事業の収支の状況と今後の見通し

(百万円)

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
競馬事業収入 (a)	54,473	55,142	56,155	57,585	58,613	59,993	61,408
うち売得金 (b)	51,850	52,725	52,989	54,291	55,625	56,992	58,392
施設整備基金繰入 (c)	0	0	0	2,028	2,084	3,711	0
収入計 (d=a+c)	54,473	55,142	56,155	59,613	60,697	63,704	61,408
競馬事業支出 (e)	50,817	52,059	52,879	58,691	59,752	62,736	59,737
うち施設整備・改修	189	560	555	5,065	5,212	6,950	2,674
施設整備基金積立 (f)	2,688	2,410	2,378	0	0	0	679
支出計 (g=e+f)	53,505	54,469	55,257	58,691	59,752	62,736	60,416
単年度収支 (h)=(d)-(g)	968	673	898	922	945	968	992
分配・繰出・債務返済 (i)	905	834	901	923	946	969	993
売得金に占める割合 (j)=(i)/(b)	1.7%	1.6%	1.7%	1.7%	1.7%	1.7%	1.7%
3か月分の固定経費相当額 (k)	2,883	3,009	3,049	3,128	3,105	3,159	3,214
不測の事態に備えた基金、繰越金等 (k)に充当可能な額	2,883	3,009	3,049	3,128	3,105	3,159	3,214

帯広市における経営基盤強化に向けた取組と見通し

第1 基本的な考え方

ばんえい競馬は、北海道開拓の暮らしの中から生まれ、開拓時代の馬を操る技が引き継がれる世界唯一の競馬である。

長年にわたる発売額の低迷により厳しい経営状況が続いたが、これまでの競馬活性化計画による取組、コロナ禍による巣籠もり需要などにより発売額が増え、経営改善が図られてきている。

今後、経営基盤を強化し、地方公共団体へ堅実な分配を行っていくためには、賞典奨励費の一定水準の確保とこれまで先送りしてきた施設の更新・整備を計画的に進め、安定した運営環境とすることで、ばんえい競馬の魅力をさらに向上させる必要がある。また、公正確保の徹底と特色のあるばん馬の魅力発信を積極的に行い、新たなファン獲得により来場促進とインターネット会員増加による売上増加を図ることが必要である。

さらに、ばんえい競馬の継続にあたっては、競走馬である重種馬の確保、若い世代の調教師、騎手等の人材の確保が必要である。

これらの様々な課題に柔軟に対処し、帯広競馬場が中心市街地近くにある特性を生かして来場者促進の取組を推進することで、競馬場を中心とした地域活性化を図る。

また、北海道開拓の歴史を持つばん馬の馬文化の継承により、ばんえい競馬への理解醸成を図ることで存在価値を高め、永く安定的な運営体制を構築することで、ばんえい競馬に関わる人々の未来を創造し続ける。

第2 目標

帯広市は、厩舎等競馬場に係る施設の計画的な整備等による環境整備を進め、強い馬づくり、お客様に楽しんでいただける魅力あるレースを実施するなど地方競馬の活性化に資する方策に連携して取り組むことで売得金を向上させ、事業収支の改善を図るとともに、不測の事態等にも備えて経営基盤を強化する。

その上で、競馬活性化計画期間を通じて継続的に分配・繰出を行い、毎年度の分配・繰出額を収益額の10%（令和9年度で売得金の0.03%）以上とする。

第3 競馬事業に関する経営基盤の強化の程度を示す指標

令和3年度の事業収支状況等を基に、計画目標年度となる令和9年度に次の指標を達成するものとする。

- ① 売得金（場間場外及び電話・インターネット投票も含めた全体の売上）を対前年度比平均2%以上向上させ、収益額150百万円以上を確保
- ② 施設整備を計画的に実施し、耐用年数超過割合を10ポイント以上低減
- ③ 不測の事態等に備え、競馬を再開するまでに必要な経費として活用可能な基金、繰越金等（5か月分の競馬事業支出の固定経費10億円以上）を確保

第4 目標達成に向け実施する主な取組

1 競走の魅力を高めるために必要な措置

・「ばんえい記念」をばんえい競馬の頂上戦として実施するほか、ファン人気投票順により編成される「ばんえいグランプリ」やばんえい甲子園と言われる生産地区毎の2歳馬による競走の上位による「ヤングチャンピオンシップ」など、ファンの興味をそそる重賞競走を設定し、有力馬を出走させることでばんえい競馬の魅力向上を図る。

あわせて、発売傾向や調教スケジュールを考慮した日程に重賞競走を設定することで、競走の質と注目度の向上を図る。

2 地方競馬の活性化に資する事業

(1) 競馬の魅力の向上

- ・競走馬となる重種馬の生産者に対しての支援により新馬の適正頭数の確保に努め、在厩馬の調整を図り強い馬づくりを進める。
- ・毎年度活躍した有力馬や騎手等を表彰することにより競争意欲の向上を図り、それを中心とした更なる広報戦略を展開する。
- ・次世代を担う騎手の確保に向けて、志願者に対して講習等の支援を実施する。
- ・きゅう務員宿舎の整備による環境整備により、きゅう務員の確保に努める。
- ・競走馬の能力向上を図るため、厩舎環境の改善と報償費確保により競争意識を促進する。
 - 厩舎整備：厩舎7棟建設（令和7～9年度）
 - 練習走路整備：（令和6年度）

(2) 競馬の魅力の伝達

- ・地域の人のもとより、全国から多くのファンが訪れたいと思う人気コンテンツ（「有名タレント」「アニメ」等）と連携したイベントの開催などに取り組む。
- ・市街地にある特性を生かし、地元企業と連携した「ばん馬まつり」やばんえい記念にあわせて、地元飲食店が行う「ばん馬盛り」キャンペーンを盛り上げ、家族で楽しめるイベントを増やすことで、若い世代の家族連れなど誰もが来場しやすい競馬場づくりに取り組む。
- ・インターネット動画配信やSNSなどの媒体を介して、他の競馬場には無い「馬の大きさ」「迫力」「愛らしさ」といったばん馬の魅力発信を充実させる。
- ・PR馬の派遣などを通じて、他の競馬場や公営競技主催者との交流イベントを実施し、ばん馬の力強さや魅力を広め、新たなばんえい競馬ファン及びインターネット新規会員の獲得を図る。
- ・世界で唯一の競馬として、ばん馬派遣事業等により北海道開拓の歴史、馬文化としての魅力発信を図る。
- ・中央競馬、地方競馬主催者間で連携したイベントを実施し、トークショーや場立ち予想によるばんえい競馬解説をすることで認知度向上を図る。
- ・収益金の配分・広報により地域貢献と地域住民からの理解醸成を促進する。
- ・インターネット発売事業者と連携し、新規会員限定キャンペーン等を実施す

ることで利用者増を目指す。

- ・Webキャンペーンの実施によりばんえい競馬の認知度向上と勝馬投票券購入の機会促進を図る。

(3) お客様の利便性の向上

- ・スマートフォンやデジタルサイネージ等の電子媒体を活用した情報取得方法を推進し、発売所の環境改善を図る。
- ・キャッシュレス機器の導入を図り、購入の利便性を向上させる。
- ・パドック映像やレース映像に新たな視点からの映像を取り込み、勝馬予想の判断材料を増やすとともに、馬の迫力や魅力が伝わりやすい構成とする。
- ・インターネット動画配信における情報提供の充実化を図り、在宅投票会員の利便性を向上させる。

第5 今後の施設整備の見通し

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
総施設数 (a)	53	53	53	53	56	56	56
耐用年数超過施設数 (b)	31	31	31	31	30	26	22
(割合) (c)=(b)/(a)	58.5%	58.5%	58.5%	58.5%	53.6%	46.4%	39.3%

第6 競馬事業の収支の状況と今後の見通し

(百万円)

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
競馬事業収入 (a)	52,332	53,379	54,447	55,536	56,647	57,780	58,936
うち売得金 (b)	51,702	52,736	53,791	54,867	55,964	57,083	58,225
施設整備基金繰入 (c)	809	509	500	800	800	800	800
収入計 (d=a+c)	53,141	53,888	54,947	56,336	57,447	58,580	59,736
競馬事業支出 (e)	51,646	52,679	53,733	54,808	55,904	57,022	58,162
うち施設整備・改修	750	509	500	800	800	800	800
施設整備基金積立 (f)	1,541	1,059	1,064	1,378	1,393	1,408	1,424
支出計 (g=e+f)	53,187	53,738	54,797	56,186	57,297	58,430	59,586
単年度収支 (h)=(d)-(g)	▲46	150	150	150	150	150	150
分配・繰出・債務返済 (i)	15	15	15	15	15	15	15
売得金に占める割合 (j)=(i)/(b)	0.03%	0.03%	0.03%	0.03%	0.03%	0.03%	0.03%
5か月分の固定経費相当額 (k)	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
不測の事態に備えた基金、繰越金等 (k)に充当可能な額	474	594	694	794	894	994	1,000

岩手県競馬組合における経営基盤強化に向けた取組と見通し

第1 基本的な考え方

岩手県競馬組合は、長期的な発売額の減少や盛岡競馬場整備等の設備投資負担などを要因として、平成12年度から資金収支不足となり、収支不足を借入金で補填し、累積債務が増大したことから、平成18年に単年度収支均衡を存続の条件とした「新しい岩手県競馬組合改革計画」（平成18年11月20日岩手県競馬組合議会議決）を策定し、構成団体から約330億円の融資を受け事業を継続している。

また、平成23年3月に発生した東日本大震災津波により競馬場等に甚大な被害が発生したこと等から、平成22年度から平成26年度までの地全協1号交付金の支払猶予を受けるとともに、平成23年度に「岩手県競馬組合事業収支改善計画」を策定して経営体質や発売体制の強化に取り組み、平成27年度から令和6年度までの10年間で特例交付金（1号交付金の猶予分）を交付（返済）していくこととしている。

このような状況の中で、岩手県競馬組合は、地方競馬の連携を推進し、その活性化を図る競馬活性化計画の共同事業に加え、個別の取組として、ダートグレード競走における秋のマイル競走の頂点であるマイルチャンピオンシップ南部杯（Jpn I）や令和6年度からダートグレード競走に格上げの上実施される不来方賞（Jpn II）を中心とした魅力ある競走体系の整備、地方競馬唯一である芝走路を最大限活用した番組編成の充実、東北の馬産地振興のための取組、有力馬及び2歳馬の入厩促進による競馬番組の魅力向上、厩舎や場内施設の整備、情報提供の拡充によるお客様の利便性向上を図り、発売額の向上を図ると共に、経費の見直しを行うことにより、収支の改善に取り組むものとする。

第2 目標

岩手県競馬組合は、厩舎・調教施設の計画的な整備等による強い馬づくりと競走体系の整備を進め、お客様に楽しんでいただける魅力あるレースを実施するなど地方競馬の活性化に資する方策に連携して取り組むことで売得金を向上させ、事業収支の改善を図るとともに、不測の事態等にも備えて経営基盤を強化する。

その上で、競馬活性化計画期間を通じて継続的に構成団体からの融資の返済を行い、令和9年度の返済額を売得金額の0.3%以上とすることを目標とする。

第3 競馬事業に関する経営基盤の強化の程度を示す指標

令和3年度の事業収支状況等を基に、計画目標年度となる令和9年度に次の指標を達成するものとする。

- ① 売得金（場間場外及び電話・インターネット投票も含めた全体の売上）を対前年度比平均2.0%以上向上させ、収益額は3.8%以上増加
- ② 施設整備を計画的に実施し、耐用年数超過割合を31.6ポイント以上低減
- ③ 不足の事態等に備え、競馬を再開するまでに必要な経費として活用可能な基金、繰越金等（3か月分の競馬事業支出の固定経費相当額以上）を確保

第4 目標達成に向け実施する主な取組

- 1 競走体系の整備など競走の魅力を高めるために必要な措置
 - ・不来方賞が全日本的なダート競走の体系整備により創設される3歳ダート3冠競走最終戦のジャパンダートクラシックの前哨戦に位置付けられることから、トライアル競走として相応しい他地区所属の有力馬が集結するよう、一定以上のレーティングを持った馬の出走に際し出走奨励金を支給する。

- ▶ ダートグレード出走奨励金 100万円/頭（令和6～9年度）
- ・ネクストスター盛岡に有力な馬を出走させるため、2歳重賞競走のビギナーズカップを前哨戦として実施する。
- ・ネクストスター北日本に有力な馬を出走させるため、3月に前哨戦となる3歳重賞競走を設定する。
- ・ダートグレード競走の国際化に向けて、より高い国際格付取得が申請可能なレーティング確保のために一定以上のレーティングを持った他地区所属馬の出走を促進するため出走奨励金を支給するとともに、1着賞金についても昇格基準以上の額を設定する。
- ▶ ダートグレード出走奨励金 100万円/頭（令和5～9年度）
- ▶ マイルチャンピオンシップ南部杯の1着賞金の増額 6000万⇒7000万円（令和5～9年度）
- ▶ マーキュリーカップ、クラスターカップの1着賞金の増額 2800万円⇒3000万円（令和5年度～9年度）
- ・トライアル競走優勝馬がダートグレード出走を回避しないよう、出走奨励金を支給する。
- ▶ 出走特別奨励金 100万円/頭（令和5～9年度）

2 地方競馬の活性化に資する事業

(1) 強い馬づくり等による競馬の魅力の向上

- ・有力馬入厩対策のため水沢競馬場厩舎の整備、建替を行う。
（事業費約35億円（令和6～9年度））
- ・公正で魅力ある競走施行のため盛岡・水沢両競馬場の走路整備を行う。
（事業費約1.5億円（令和5～9年度））
- ・高い素質の競走馬の入厩を目指し、補助額を増額する。
（2歳馬入厩促進事業（補助馬購買補助金事業））
- ・厩務員の労働環境改善及び厩務員人数の更なる確保を目指し、厩務員処遇改善として厩舎整備と併せて手当関係を増額する。
- ・岩手所属馬のレベルアップのため、他地区交流重賞競走へ出走した際に奨励金を支給し、出走促進を図る。
- ・指定の重賞競走優勝馬が民間施設において調教馴致を行う場合、トレセン使用料及び馬輸送料に対して補助金を支給する。
- ・冬季休催期間の馬資源流出防止と厩舎関係者の安定した雇用確保のため、継続して入厩する馬に在厩馬奨励金を支給する。
- ・滞在厩舎の整備など、遠方から出走しやすい仕組みの検討

(2) 競馬の魅力の伝達

- ・新たなインターネット投票会員獲得を目指し、売得金の向上につなげるため、インターネット生配信予想番組の拡充、公式ホームページのリニューアル、公式YouTubeチャンネルの内容充実等を行い、全国の競馬ファンに向けた情報提供を強化する。
- ・お客様に競馬場に来場して楽しんでいただくため、若者や家族向けのバックヤードツアー及び新設したパドック席での下見所観覧、家族連れで入場しやすい親しみある競馬場づくりのための遊具等の整備、地元幼稚園児や高齢者の招待を実施する。また地域に根差した岩手競馬への理解情勢のために、県、市町村、畜産協会と連携したイベント事業を実施する。
- ・ファンフェアレをリニューアルし、岩手競馬のイメージアップを図る。
- ・馬産地としての東北をより広く情報発信するため、東北産馬の活躍をリリー

- スするなど、広報展開を強化
- (3) お客様の利便性の向上
- ・発走時刻の平準化（冬期間の開催を除く）
 - ・競馬場および場外発売施設において、長時間滞在しやすいように環境を整備する。（無料Wi-Fiの提供、観覧席の更新等）
 - ・混雑の分散化・密集を避ける施策の検討（キャッシュレス機器導入の検討、発売払戻機の適正な配置）

第5 今後の施設整備の見通し

	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
総施設数(a)	68	77	77	63	69	61	67
耐用年数超過施設数(b)	55	55	55	41	41	33	33
(割合) (c)=(b)/(a)	80.9%	71.4%	71.4%	65.1%	59.4%	54.1%	49.3%

第6 競馬事業の収支の状況と今後の見通し

(百万円)

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
競馬事業収入 (a)	59,210	69,215	59,903	61,461	63,174	64,826	67,111
うち売得金 (b)	57,153	65,872	57,703	59,261	60,920	62,626	64,442
施設整備基金繰入 (c)	630	917	200	352	1,284	385	1,140
収入計 (d=a+c)	59,840	70,132	60,103	61,813	64,458	65,211	68,251
競馬事業支出 (e)	58,035	69,380	59,203	60,913	63,458	64,211	67,161
うち施設整備・改修	1,162	1,830	250	577	1,876	435	1,660
施設整備基金積立 (f)	1,333	452	600	600	600	600	600
支出計 (g=e+f)	59,368	69,832	59,803	61,513	64,058	64,811	67,761
単年度収支 (h)=(d)-(g)	472	300	300	300	400	400	490
分配・繰出・債務返済 (i)	186	100	100	100	150	150	195
売得金に占める割合 (j)=(i)/(b)	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.3%
3か月分の固定経費相当額 (k)	1,456	1,456	1,456	1,456	1,456	1,456	1,456
不測の事態に備えた基金、繰越金等 (k)に充当可能な額	902	902	902	902	1,152	1,402	1,456

埼玉県浦和競馬組合における経営基盤強化に向けた取組と見通し

第1 基本的な考え方

埼玉県浦和競馬組合は、コロナ禍において無観客開催や入場制限等を余儀なくされたが、いわゆる巣ごもり需要といわれる在宅投票による売上増もあり、令和3年度は6年連続で過去最高の総売得金額の記録を更新した。

一方で、来場者の減少や売得金額の伸びの鈍化、業務エリアやきゅう舎等の老朽化等の対処すべき課題がある。

については、これら課題に対処するため、競馬活性化計画を踏まえ、令和5年度から令和9年度までの5年間における浦和競馬組合の第6期5か年経営戦略を策定し、「ファンに愛される競馬場」「競馬の魅力の向上」「経営基盤の強化」を掲げ、更なる発展に向けた取り組みを行っていく。

具体的には、130万人都市に立地し、多路線が乗り入れる浦和駅及び南浦和駅を最寄りとするアクセスの良さをアピールし、パドックやレース観戦が間近に見られる馬の迫力やレースの感動といった、競馬場でしか得られない価値を創出し、来場者の拡大を目指すことで、ファンに愛される競馬場を確立していく。

また、競馬開催時以外は公園施設として地域住民に開放し、癒しとくつろぎの空間を提供するほか、地震等の災害発生の際は、一時的に避難できる広域避難場所に指定されており、生命や財産を守る施設として平時・緊急時ともに地元に着した競馬場を目指していく。

併せて、令和6年度から「さきたま杯」競走がJpn Iへ格上げし、上半期の古馬短距離の頂点競走として位置づけられることから、「さきたま杯」を中心に浦和競馬を盛り上げていく必要がある。このため、魅力的な競走番組を整備するとともに、中央競馬に比肩する強い馬づくりのため計画的に厩舎整備や走路改修を行い、競馬の魅力の向上を図っていく。

これら、ファンに愛される施策を展開し、強い馬の輩出等による競馬の魅力を高めることで経営基盤を強化し、売得金を5年間で12%向上させることで、構成団体への分配金の拡充を図る。

第2 目標

埼玉県浦和競馬組合は、厩舎・調教施設の計画的な整備等による強い馬づくりと競走体系の整備を進め、お客様に楽しんでいただける魅力あるレースを実施するなど地方競馬の活性化に資する方策に連携して取り組むことで売得金を向上させ、事業収支の改善を図るとともに、不測の事態等にも備えて経営基盤を強化する。

その上で、競馬活性化計画期間を通じ、構成団体への分配金等について、継続的に売得金額の1.2%以上とすることを目標とする。

第3 競馬事業に関する経営基盤の強化の程度を示す指標

令和3年度の事業収支状況等を基に、計画目標年度となる令和9年度に次の指標を達成するものとする。

- ① 売得金（場間場外及び電話・インターネット投票も含めた全体の売上）を対前年度比平均2%以上向上させ、収益額を105%以上増加

- ② 施設整備を計画的に実施し、耐用年数超過割合を30ポイント以上低減
- ③ 不測の事態等に備え、競馬を再開するまでに必要な経費として活用可能な基金、繰越金等（3か月分の競馬事業支出の固定経費相当額以上）を確保

第4 目標達成に向け実施する主な取組

- 1 競走体系の整備など競走の魅力を高めるために必要な措置
 - ・重賞競走の新設及び格上げ等を行い、競走番組の充実を図る。
 - 指定交流競走『さきたま杯』競走を(JpnⅡ)→(JpnⅠ)へ格上げするとともに、5月上旬のかしわ記念後の上半期における古馬短距離路線の頂点として位置づけとなるローテーション間隔を設定するため、実施時期を5月下旬から6月中旬に移行する。(令和6年度)
 - 南関東地区でデビューする競走馬の早期目標となる、2歳準重賞競走の『ルーキーズサマーカップ』競走を8月に重賞として新設し、10月の鎌倉記念や11月のハイセイコー記念に向かうステップ競走として整備し、2歳馬路線の更なる拡充を目指す(令和5年度)
 - 浦和競馬場において一番の歴史と伝統のある重賞競走である『桜花賞』を中心とした、牝馬競走体系の充実を図っていく。
 - ・より高い国際格付けの取得に向け、賞金の充実等により、国際的な評価基準に適う競走の質の確保を図る。
格上げとなる競走番組を中心に賞金及び報償金の増額等を図ることで、より強い馬が出走するよう誘致する。
 - ダートグレード競走2競走の賞金増額(令和5年度)
 - 『さきたま杯』競走の(JpnⅠ)へ格上げに伴う賞金増額(令和6年度)
 - ダートグレード競走のレースレーティングの確保：
さきたま杯 115、オーバルスプリント 105、浦和記念 110
 - ダートグレード競走の充実のため、地方馬に対する出走奨励金等創設を検討
 - 国際競走とするための国際厩舎整備の検討
 - 準重賞競走の賞金配分率を170方式→180方式へ増額(令和5年度)
 - 特別・普通競走の賞金配分率を180方式→190方式へ増額(令和5年度)
- 2 地方競馬の活性化に資する事業
 - (1) 強い馬づくり等による競馬の魅力の向上
 - ・新馬導入経費の一部助成等による資質の高い新馬の確保対策を実施する。
 - ・調教環境を改善するため、走路、厩舎等の改善計画を定め、順次建替等に着手する。
 - 厩舎整備（事業費約32.4億円（令和6年度～9年度）
 - 走路改修（事業費約2.6億円（令和5、8年度）） 等
 - ・調教技術向上のための人材確保・人づくり
 - 野田トレセンを最大限活用した厩舎関係者への調教技術向上に資する研修の充実（令和5年度～9年度）
 - 騎手の技術向上を図るため、浦和在厩馬に浦和所属騎手を騎乗させた場合に、馬主等への奨励金を支給。また、新人騎手を騎乗させた場合はさらに奨励金を別に支給（令和5年度～9年度）

- 厩務員の働き方の改善及び社会保険制度定着のための調教師への助成
- (2) 競馬の魅力の伝達
 - ・各開催時に市町村シリーズとした競走番組を打ち出し、特産品等の来場プレゼントや特産品の販売コーナーブースを設ける等の県内市町村との連携したイベントを行うほか、場内の埼玉県産品ショップで県内の様々な市町村名産品等を販売し、埼玉県の特徴などを全国に発信していく。
 - ・県内企業とコラボした商品を活用したファンサービスなどにより、浦和競馬場の魅力を高めていく。
 - ・コンパクトな競馬場を活かし、パドックやレース観戦が間近に見られる「馬の迫力」「騎手の躍動」「レースの感動」「競馬場の開放的な雰囲気」など、肌で感じてもらう機会を創り、競馬の魅力、楽しみの価値を創出する。
 - ・総合プロモーション事業を推進し、浦和競馬の魅力発信を随時行っていく。
 - ・競馬場の顔となる正門や観覧しやすいパドックを改修するなど、浦和競馬場の魅力の底上げを図る。
 - 正門エリア等整備（事業費約 17.9 億円（令和 6 年度～ 7 年度）
 - パドック等改修（事業費約 9.0 億円（令和 5、6 年度）） 等
 - ・住宅地にある立地を活かし、地元イベント等による競馬場の利用促進を行い、地域生活に密着した競馬場をアピールする。
 - ・キッチンカーによる新たな「食」を誘致し、場内イベントを盛り上げファンの来場を促進するほか、女性専用エリアを設置し、女性が快適に競馬場を楽しむ環境整備を行う。
 - ・他の主催者と連携し、民放でのテレビCMや、youtube 動画広告、Google や Yahoo! といった Web を用いたリスティング広告を展開する等、SPAT4 を中心とした幅広い年代層のインターネット会員の獲得を図る。

(3) お客様の利便性の向上

- ・令和 5 年 3 月から走路照明を活用し、通年において薄暮競馬として開催を行っていく。これにより、季節ごとに変動していた発走時刻が固定化することにより、ファンにとって分かりやすい開催時間となる。
また競走数についても、これまで日没時間が早い冬季は、11 競走制で実施していたが、今後は通年において 12 競走制での開催が可能となる。
これらにより、勝馬投票券の購入機会が拡大するとともに、売上向上が期待できる。
- ・ネット利用者に向けて、浦和競馬ホームページをリニューアルし、南関ホームページ等の自動リンク（開催情報配信システム）でのリアル情報を配信するほか、YouTube の LIVE 中継を全レースで行っていく。

第 5 今後の施設整備の見通し

	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7	令和 8	令和 9
総施設数 (a)	102	96	96	96	94	94	94
耐用年数超過施設数 (b)	70	63	67	66	51	51	36
(割合) (c) = (b) / (a)	68. 6%	65. 6%	69. 8%	68. 8%	54. 3%	54. 3%	38. 3%

第6 競馬事業の収支の状況と今後の見通し

(百万円)

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
競馬事業収入 (a)	72,638	72,821	77,421	78,821	79,521	80,321	81,021
うち売得金 (b)	66,217	66,400	71,000	72,400	73,100	73,900	74,600
施設整備基金繰入 (c)	0	2,669	2,790	3,680	5,010	2,080	2,120
収入計 (d=a+c)	72,638	75,490	80,211	82,501	84,531	82,401	83,141
競馬事業支出 (e)	68,624	74,865	75,973	78,010	79,913	77,638	78,251
うち施設整備・改修	3,031	5,449	2,790	3,680	5,010	2,080	2,120
施設整備基金積立 (f)	3,680	0	3,600	3,850	3,950	4,100	4,200
支出計 (g=e+f)	72,304	74,865	79,573	81,860	83,863	81,738	82,451
単年度収支 (h)=(d)-(g)	334	625	638	641	668	663	690
分配・繰出・債務返済 (i)	1,950	720	852	869	877	887	895
売得金に占める割合 (j)=(i)/(b)	2.9%	1.1%	1.2%	1.2%	1.2%	1.2%	1.2%
3か月分の固定経費相当額 (k)	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200
不測の事態に備えた基金、繰越金等 ((k)に充当可能な額)	596	596	916	1,236	1,556	1,876	2,200

千葉県競馬組合における経営基盤強化に向けた取組と見通し

第1 基本的な考え方

船橋競馬では、平成26年度に単年度黒字化を達成後、毎年度売得金を伸ばしており、令和3年度は過去最高を記録した。また、平成28年度からは構成団体への収益配分も再開し、地方財政へ寄与しているところである。

しかし、経営の厳しい時期が長く続いたことから、施設の改修が遅れている。近隣の競馬場に比べて老朽化が著しいスタンドについては、令和元年度から建て替えを行っており、改修に一定の目途がついたところである。今後は、スタンド周辺のエリアを整備し、競馬場と街をつなぐハブ的なスポットとなるように近隣商業施設と協力した街づくりを進めていく。併せて、厩舎関係者の住労働環境の改善を図るため、老朽化の進む厩舎の整備を進めていく必要がある。

また、ダートグレード競走出走馬数を増やす目標を掲げて、強い馬づくりに取り組んでいる結果、船橋競馬の所属馬は、ダートグレード競走において一定の戦績を挙げることができている。しかし、中央競馬と比較すると、より一層、競走馬の競走能力の向上を図ることが必要であり、今後も、継続して厩舎の整備等、強い馬づくりに取り組んでいくことが必要である。

こうした状況を踏まえ、引き続き、老朽化する施設の改修を行うとともに、強い馬づくりを進めることで競走の魅力を高め、お客様に満足していただける競馬場を目指す。

第2 目標

千葉県競馬組合は、厩舎・調教施設の計画的な整備等による強い馬づくりと競走体系の整備を進め、お客様に楽しんでいただける魅力あるレースを実施するなど地方競馬の活性化に資する方策に連携して取り組むことで売得金を向上させ、事業収支の改善を図るとともに、不測の事態等にも備えて経営基盤を強化する。

その上で、競馬活性化計画期間を通じて継続的に分配・繰出を行い、令和9年度の分配・繰出額を売得金額の1.3%以上とすることを目標とする。

第3 競馬事業に関する経営基盤の強化の程度を示す指標

令和3年度の事業収支状況等を基に、計画目標年度となる令和9年度に次の指標を達成するものとする。

- ① 売得金（場間場外及び電話・インターネット投票も含めた全体の売上）を対前年度比平均2%以上向上させ、収益額を78%以上増加
- ② 施設整備を計画的に実施し、耐用年数超過割合を94ポイント以上低減
- ③ 不測の事態等に備え、競馬を再開するまでに必要な経費として活用可能な基金、繰越金等（3か月分の競馬事業支出の固定経費相当額以上）を確保

第4 目標達成に向け実施する主な取組

1 競走体系の整備など競走の魅力を高めるために必要な措置

- ・新たなダートグレード競走体系の整備を行い、次に掲げるレースについて新設及び見直しを行う。
 - 3歳ダート路線における1月から4月までのダートグレード競走の空白期間を充実させるため、ブルーバードカップを新設する。
 - 古馬中距離路線における頂点競走(川崎記念等)に向かう競走体系の整備のため、ダイオライト記念の負担重量を定量からグレード別定に見直す。
 - 古馬牝馬路線における頂点競走(エンプレス杯)へ向かう競走体系の整備のため、クイーン賞の実施時期を12月上旬から2月上旬に移動する。
 - 3歳牝馬路線における下半期の頂点競走を設定するため、マリーンカップの出走資格等を変更し、併せて実施時期を4月上旬から9月下旬に移動する。
- ・新たなダートグレード競走体系に沿った地区重賞等の設定として、フリーオーソレジェンドカップを8月に新設し、9月の日本テレビ盃に向けたステップ競走とする。
- ・より高い国際格付けの取得に向け、必要な施設の整備を行うとともに、賞金及びレースレーティングの基準を満たすようにする。
 - 隔離厩舎の整備
 - ダートグレード競走の賞金増額
 - クイーン賞 (42,500千円→51,000千円)
 - 日本テレビ盃 (59,500千円→68,000千円)
 - ダイオライト記念 (68,000千円→76,500千円)
 - マリーンカップ (42,500千円→51,000千円)
 - レースレーティングの確保
 - かしわ記念 115
 - ダイオライト記念・日本テレビ盃 110
 - ブルーバードカップ 105
 - マリーンカップ・クイーン賞 101

2 地方競馬の活性化に資する事業

(1) 強い馬づくり等による競馬の魅力の向上

船橋競馬では、競走路において調教も実施していることから、定期的な競走路の整備を行っていくとともに、老朽化が著しい厩舎の建て替え等の整備を実施し、引き続き強い馬づくりを推進していく。

- ・本馬場調教を効果的に行うため、良好な馬場状態を維持する。
 - (馬場改修 494,615千円(令和5年度))
- ・厩舎の建て替え等により、労働環境及び住環境を改善することで、厩舎関係者の確保を図る。
 - (厩舎整備 6,600,000千円(令和7年度~))
- ・有力馬の出走を促すため、出走奨励金の拡充を行う。
 - 入着付加奨励金の継続及び拡張
 - (令和5年度~ 314,624千円(令和5年度))
 - 2歳馬強化奨励金の新設
 - (令和5年度~ 3,690千円(令和5年度))

- ・待機馬房の整備を行い、他所属の有力馬が出走しやすい環境を作る。
(待機馬房改修 1,600,000 千円 (令和5年度・6年度))

(2) 競馬の魅力の伝達

- ・近隣商業施設側に新入場門を設置するとともに、スタンドや新入場門の周辺を競馬と市民をつなぐ街の憩いスペースとなるような広場として整備することで、近隣の商業施設との一体的な街づくりの一端を担い、地域に根差した親しまれる競馬場を目指す。

(入場門の新設及びスタンド周辺の整備 (令和6年度))

- ・キッズルームや授乳室を設置し、ファミリー層が過ごしやすい環境を作る。
- ・若年層、女性、ファミリー層へのPRの充実、イベント等の実施(地産地消を意識した飲食に関するイベント、「音楽のまち船橋」を盛り上げる音楽イベントの実施など)により、新たな客層の確保を図る。
- ・新たなダートグレード競走体系や南関東競馬の競走体系の広報を充実させる。
(イベント実施等を含めた一括広報の実施 970,000 千円 (令和5年度))
- ・在宅投票の拡充を図るため、他の地方競馬主催者と協力し、新たなお客様の獲得に向けた積極的な広報を実施する。

(3) お客様の利便性の向上

- ・パドックビジョン等の映像機器や投票機器等の更新を適時行う。
(パドックビジョンの更新 800,000 千円 (令和6年度))
- ・キャッシュレス投票の推進等、快適な投票環境づくりを行う。
(キャッシュレス投票機の増設 42,630 千円 (令和6年度))
- ・共通基幹システムの安定的な運用及び高度化を実施し、お客様へ適時適切な情報提供が行えるようにする。
- ・ホームページの運用体制を見直し、緊急時の情報発信のタイムラグを現行より少なくさせるほか、重賞競走特設ページをより充実させるなど、公式ホームページ全体のリニューアルを行う。
(公式ホームページリニューアル 9,000 千円 (令和5年度))

第5 今後の施設整備の見通し

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
総施設数(a)	69	63	63	64	64	64	64
耐用年数超過施設数(b)	65	59	60	50	30	20	0
(割合)(c)=(b)/(a)	94.2%	93.7%	95.2%	78.1%	46.9%	31.2%	0%

特別区競馬組合における経営基盤強化に向けた取組と見通し

第1 基本的な考え方

大井競馬は、バブル崩壊後の約 20 年にわたって売上の長期停滞が続いたものの、競馬活性化計画の支援を受けた全ての地方競馬主催者と日本中央競馬会との共通基幹システムの構築、競馬開催業務の効率化を目的とした経費の見直しに伴う収支改善と南関東 4 競馬主催者の連携協力のもと推進してきた在宅投票システムの整備などにより経営改善は着実に進んできた。

一方、大井競馬開催成績の長期的な低迷期に先送りしてきた賞典奨励費の増額、構成団体への収益金の分配、施設の再整備の取組は今後も行っていく必要がある。大井競馬が未来に向けて安定的な経営を継続するには、共通基幹システムの維持・高度化や施設整備等を適切に行った上で、「強い馬づくり」による競馬の魅力向上を図り経営基盤を強化することが不可欠である。

「競走体系の整備」については、令和 6 年から始まる全日本的な 3 歳ダート三冠競走の整備を契機として、ダートクラシック路線の活躍馬が古馬ダート交流重賞を盛り上げるなど全日本的なダート競走体系を確立し、中央競馬と伍して戦える大井競馬所属馬の輩出を目指すための様々な環境を整備する。

「競馬の魅力の伝達」及び「お客様の利便性向上」については、公正競馬の徹底とギャンブル等依存症対策に取り組むことにより国民の信頼を確保する。さらに、馬券の発売や情報の発信にあたっては、利便性の良い販売網・効果的な情報発信を整備し、特に売上の軸となったインターネット投票システムをはじめ、基幹システムなど全てのシステムの安定稼働に取り組みお客様が安心して競馬を楽しんでいただける環境を構築する。

これにより、売上の向上と収益の確保による安定的な経営基盤を確立し、競馬の開催を通じた畜産振興や地方財政への寄与を図ることとする。

第2 目標

特別区競馬組合は、厩舎・調教施設の計画的な整備等による強い馬づくりと競走体系の整備を進め、お客様に楽しんでいただける魅力あるレースを実施するなど地方競馬の活性化に資する方策に連携して取り組むことで売得金を向上させ、事業収支の改善を図るとともに、不測の事態等にも備えて経営基盤を強化する。

その上で、競馬活性化計画期間を通じて継続的に分配を行い、単年度収支の 1/2（令和 9 年度においては売得金額の 4.1%以上）に相当する額を分配することを目標とする。

第3 競馬事業に関する経営基盤の強化の程度を示す指標

令和 3 年度の事業収支状況等を基に、計画目標年度となる令和 9 年度に次の指標を達成するものとする。

① 売得金（場間場外及び電話・インターネット投票も含めた全体の売上）を対前

年度比平均 3.4%以上向上させ、収益額を 24%以上増加

- ② 施設整備を計画的に実施し、耐用年数超過割合を 20 ポイント以上低減
- ③ 不測の事態等に備え、競馬を再開するまでに必要な経費として活用可能な繰越利益剰余金（1 か年分の競馬事業支出の固定経費相当額以上）を確保

第4 目標達成に向け実施する主な取組

1 競走体系の整備など競走の魅力を高めるために必要な措置

- ・令和 6 年から全日本的な競走体系の整備の一環として大井競馬場を舞台に中央競馬・地方競馬の 3 歳ダートチャンピオンを決定する 3 歳ダート三冠競走（羽田盃、東京ダービー、ジャパンダートクラシック）を実施する。また、3 歳ダート三冠競走において有力馬同士の対戦を実現するため、前哨戦となる京浜盃競走、雲取賞競走を DG 競走として実施するほか、前年実施の 2 歳戦から長距離（1700m 以上）の競走を編成する。
 - 羽田盃競走（S I）及び東京ダービー競走（S I）をそれぞれ Jpn I 競走に格上げする。
 - ジャパンダートダービー競走（Jpn I）を 3 歳ダート三冠競走の下半期の頂点競走として設定するため、実施時期を 7 月から 10 月に、名称をジャパンダートクラシック競走（Jpn I）に変更する。
 - 京浜盃競走（S II）及び雲取賞競走（S III）をそれぞれ Jpn II、Jpn III 競走に格上げする。
 - 令和 5 年に実施する 2 歳競走より 3 歳ダート三冠競走を意識した競走を実施する。9 月及び 11 月に実施する 2 歳新馬競走を 1,800m（または 1,700m）で実施する。10 月及び 12 月に実施する 2 歳特別競走を 1,800m（または 1,700m）で実施する。
 - 令和 6 年に実施する 3 歳競走より 3 歳ダート三冠競走を意識した競走を実施する。3 月に実施するクラシクトライアル競走を 1,800m で 5 月に実施するダービートライアル競走を 2,000m で実施する。
- ・より高い国際格付けの取得に向け、大井競馬場で実施する 3 歳ダート三冠競走への出走奨励策として、3 歳ダート三冠競走、京浜盃競走、雲取賞競走、2・3 歳限定で実施する特別及び普通競走（新馬競走を含む）の賞金・奨励金を増額する。
 - 3 歳ダート三冠競走の 1 着賞金を（羽田盃競走を 3,500 万円から 5,000 万円に、東京ダービー競走を 6,000 万円から 1 億円に、ジャパンダートクラシック競走を 6,000 万円から 7,000 万円に）それぞれ増額する。
 - 3 歳ダート三冠競走の前哨戦の 1 着賞金を（京浜盃競走を 2,000 万円から 3,000 万円に、雲取賞競走を 1,200 万円から 2,000 万円に、）それぞれ増額する。
 - 2 歳または 3 歳限定で実施する特別及び普通競走（新馬競走を含む）の賞金を各競走 100 万円以上増額する。
 - 3 歳ダート三冠を達成した馬に対しボーナスとして 8,000 万円を支給する。
- ・より高い国際格付けの取得に向け、国際的な評価基準に適う競走の質の確保を図るため、調教施設の整備による大井所属馬の競走能力向上や奨励金の付

与により友好提携を結ぶサンタアニタ競馬場等への出走拡大を図るとともに、交流厩舎、待機馬房の整備や他場所属馬への奨励金の付与等により交流競走を活性化し、他場所属の有力馬を集結させることで、大井競馬場で実施するDG競走のレースレーティングを格付基準に準じた数値以上とする。

2 地方競馬の活性化に資する事業

(1) 強い馬づくり等による競馬の魅力の向上

- ・馬の競走能力の向上及び国際的な評価基準に適う競走の質の確保を図るため老朽化した調教設備の改善による2歳新馬を中心とした馬資源の確保対策、海外や他地区主催者への研修・視察による調教技術向上の取組、厩舎・調教施設の整備、民間調教施設活用の促進等を行う。

【厩舎整備】

- 交流厩舎建替（事業費2億円（令和5年度））
- 海岸厩舎建替（事業費25億円（令和6～8年度））
- 小林厩舎建替（事業費63億円（令和7～9年度））

【調教施設整備】

- 大井競馬場走路整備（事業費15億円（令和5～9年度））
- 小林牧場調教施設拡充等（事業費38億円（令和5～6年度））
- ・強い馬づくりに向けた厩舎関係者の不足解消のため、奨励金の増額、職場環境の整備、被用者保険への加入促進等による厩舎関係者の確保対策を実施する。
- ・有力馬同士が対戦する魅力的な競走を実現するため、賞金の増額・奨励金の付与による出走奨励策を実施する。
- ・サンタアニタ競馬場とこれまでも実施している記念競走や人馬の交流事業を継続する。また、技術研鑽を目的とした各種研修を通じた人材育成と交流事業を強化・発展する。

(2) 競馬の魅力の伝達

- ・中央競馬との相互発売（J-PLACE）の推進や3歳ダート三冠競走を中心とした我が国のダート競馬の価値向上を図るため、効果的かつ効率的な共同広報等を実施する。
- ・SNS等を通じて競馬を楽しむお客様に向けた情報提供を強化するとともに、地方競馬への新規参加者の増加を図るため、WEBによる広報やイベントとのバランスを取りつつ、新型コロナウイルス感染症対策に留意した上で、スポーツイベントを中心とした来場促進等を実施する。
- ・家族連れで入場しやすい親しみある競馬場を目指し、競馬場周辺の観光との連携等来場促進の取組、地方競馬への理解醸成のための公益性に関する広報や、お客様に安心して競馬を楽しんでいただくためのギャンブル等依存症対策等を更に推進する。
- ・TCK公式YouTubeチャンネル「ウマきゅん」をはじめとしたWEB・SNSを活用することで、日本全国のお客様に情報とコミュニケーションの場を提供する。また、「ウマきゅん」出演者の予想と連動させた「マルノリ投票」等の活用及びSPAT4広報を効果的に実施することにより、SPAT4会員の新規獲得及び定着化、並びに大井競馬の売上の最大化を図る。

(3) お客様の利便性の向上

- ・お客様への適時適切な情報提供の維持・強化のため、共通基幹システムの安

定的・効率的な運用及び新たな技術を取り入れた高度化を行う。

- ・お客様が楽しめる競走の拡大を図るため、発走時刻の重複回避の取組や主催者間調整による開催場数の適正化等を行う
- ・大井競馬場・専用場外発売所の投票端末機及び G-FRONT のキャッシュレス投票端末機を更新する。併せて、令和6年に発行される新紙幣の対応に係る端末改修などを実施することにより、お客様サービスの向上を図る。
- ・既存の自動発売機にQRコードユニットを追加することで、馬券購入時の利便性を向上させる。

第5 今後の施設整備の見通し

	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
総施設数(a)	64	64	64	64	64	62	67
耐用年数超過施設数(b)	52	52	51	52	52	43	40
(割合)(c)=(b)/(a)	81.3%	81.3%	79.7%	81.3%	81.3%	69.4%	59.7%

第6 競馬事業の収支の状況と今後の見通し

(百万円)

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
競馬事業収入 (a)	194,273	206,370	216,034	224,645	232,016	236,483	238,960
うち売得金 (b)	182,865	193,466	203,333	211,466	217,809	222,165	224,386
施設整備基金繰入 (c)							
収入計 (d=a+c)	194,273	206,370	216,034	224,645	232,016	236,483	238,960
競馬事業支出 (e)	177,688	188,442	197,985	205,854	211,993	216,211	218,368
うち施設整備・ 改修	2,348	2,480	2,608	2,714	2,796	2,853	2,883
施設整備基金積立 (f)							
支出計 (g=e+f)	177,688	188,442	197,985	205,854	211,993	216,211	218,368
単年度収支 (h=d-g)	16,585	17,928	18,049	18,791	20,023	20,272	20,592
分配・繰出・債務返済 (i)	6,900	11,500	13,800	9,200	9,200	9,200	9,200
売得金に占める割合 (j=i/b)	3.8%	5.9%	6.8%	4.4%	4.2%	4.1%	4.1%
1か年分の固定経費相当額 (k)	20,665	21,803	22,904	23,813	24,523	25,012	25,265
不測の事態に備えた基金、 繰越金等(k)に充当可能な額	20,665	21,803	22,904	23,813	24,523	25,012	25,265

※「うち施設整備・改修」には、施設を所有する東京都競馬株式会社への賃借料等を計上

神奈川県川崎競馬組合における経営基盤強化に向けた取組と見通し

第1 基本的な考え方

神奈川県川崎競馬組合では、以下の経営目標に取り組むこととする。

- ・ 公正な競馬を着実に実施したうえで安定的な運営を継続することにより、毎年度の単年度黒字を達成し、経営基盤強化のための基金を積み立てるとともに、構成団体への配分金を安定的に繰り出す。
- ・ 競走馬の一層の確保、きゅう舎等飼養環境及び走路等調教環境の整備、きゅう務員の確保について着実に取組を実施することにより、川崎在きゅう頭数を増やし、強い川崎所属馬をさらに輩出していくことで、競馬ファンを魅了するレースの施行及び新たな競馬ファンの獲得に繋げる。
- ・ 新しい生活様式に対応した安心・安全な環境を整備するとともに、戦略的な広報・ファンサービス等により、競馬ファンが快適に楽しめる川崎競馬をめざす。また、構成団体や県内市町村、地元企業等との連携・協調を推進して、地域社会から愛され、親しまれる川崎競馬場を確立する。

また、全日本的なダート競走の体系整備に併せて、川崎競馬のダートグレード競走の実施時期の変更や重賞競走の新設、賞金等を拡充することに加え、川崎競馬の競走体系を整備することで、有力馬同士が対戦する魅力あるレースを展開するとともに、馬資源やきゅう舎関係者の確保により強い馬づくりを推進する。特に、新馬戦の賞金を増額すること等により、新馬の入きゅう促進を図り、有力生抜き馬の獲得を促していく。

第2 目標

神奈川県川崎競馬組合は、きゅう舎・調教施設の計画的な整備等による強い馬づくりと競走体系の整備を進め、お客様に楽しんでいただける魅力あるレースを実施するなど地方競馬の活性化に資する方策に連携して取り組むことで売得金を向上させ、事業収支の改善を図るとともに、不測の事態等にも備えて経営基盤を強化する。

その上で、競馬活性化計画期間を通じて継続的に分配・繰出を行い、令和9年度の分配・繰出額を売得金額の1.8%以上とすることを目標とする。

第3 競馬事業に関する経営基盤の強化の程度を示す指標

令和3年度の事業収支状況等を基に、計画目標年度となる令和9年度に次の指標を達成するものとする。

- ① 売得金（場間場外及び電話・インターネット投票も含めた全体の売上）を対前年度比平均3.2%以上向上させ、収益額を17.6%以上増加
- ② 施設整備を計画的に実施し、耐用年数超過割合を17.2ポイント以上低減
- ③ 不測の事態等に備え、競馬を再開するまでに必要な経費として活用可能な基金、繰越金等（3か月分の競馬事業支出の固定経費相当額以上）を確保

第4 目標達成に向け実施する主な取組

- 1 競走体系の整備など競走の魅力を高めるために必要な措置

- ・全日本的な競走体系整備に伴い、川崎記念はローテーションの確保により有力馬を出走させるため令和6年1月から4月へ、エンプレス杯は上半期の牝馬の頂点競走として、令和6年3月から5月へ実施時期を変更する。
- ・重賞の新設、賞金体系や手当を拡充することで、強い馬づくりを推進するとともに、新馬戦の賞金を増額することにより、新馬の入きゅうを促進する。
 - ▶ 準重賞として9月に実施している若武者賞（鎌倉記念TR）をダートグレード競走再編に伴う2歳路線競走体系の強化の一環として、重賞競走として新設し、若武者賞（SⅢ）から鎌倉記念（SⅡ）を経て2歳競走の頂点競走と位置付けられている全日本2歳優駿（JpnⅠ）を目指す路線を整備する。
 - ▶ 新設される若武者賞（鎌倉記念TR）のステップ競走として、8月に初陣賞を整備し、早期2歳路線の強化を図り有力生抜き馬獲得を促すため、初陣賞→若武者賞→鎌倉記念→全日本2歳優駿へのロードマップを構築する。
 - ▶ 新馬戦における賞金面での優位性を明確にし、新馬の川崎競馬への入きゅうを促進するため、新馬戦競走の賞金を増額するとともに、新たに3歳新馬戦を新設する。
- ・有力馬同士が対戦する魅力的な競走を実現するため、奨励金・褒賞金の付与による出走奨励策等を実施するとともに、ダートグレード競走のより高い国際格付けの取得を推進するため、競走体系の整備を進め賞典奨励費の増額、必要なレースレーティングの確保等により有力馬による競走を開催する。

2 地方競馬の活性化に資する事業

(1) 強い馬づくり等による競馬の魅力の向上

- ・馬の競走能力の向上及び競走の質の確保を図るため、2歳新馬競走賞金の増額等による2歳馬等の馬資源の確保対策、新人騎手の騎乗機会向上対策等による調教技術向上の取組、きゅう舎・調教環境の整備等を行う。
 - ▶ きゅう舎改修：事業費7,000百万円（令和6年度～9年度）
- ・強い馬づくりに向けたきゅう舎関係者の不足解消のため、賞典奨励費の増額、きゅう舎関係者施設の整備等によるきゅう舎関係者の確保対策を実施する。
 - ▶ きゅう舎関係者住居整備：事業費1,000百万円（令和6年度）
 - ▶ 調教師が負担する社会保険料・ボーナス・住居手当・転居費用等の一部補助によるきゅう舎関係者の確保対策：事業費560百万円（令和5年度～9年度）
- ・全日本的な競走体系を実現するため、全日本2歳優駿における特別出走奨励金を増額し出走しやすい取組を実施するとともに、トライアルレースにおいて他場グレード競走等への優先出走権を付与し他場への出走を促す取組を実施する。

(2) 競馬の魅力の伝達

- ・電話、インターネット投票により競馬を楽しむ全国のお客様に向けた戦略的な広報を実施するとともに、川崎競馬に初めて参加のお客様のために、YouTubeを活用した競馬トークライブ（スパーキングトークライブ）の配信など、WEBによる広報やビギナーズカウンターの設置、バックヤードツアー、フォトツアー等のイベントを充実させ、新型コロナウイルス感染症対策に留

意した安心・安全で快適な場内環境を整備する。

- ・インターネット会員の獲得に向け、ポイントキャンペーン等を実施する。
- ・県内自治体、地元企業やプロスポーツチームの協賛レース等を積極的に実施する。
 - 広報業務：事業費 4,500 百万円（令和 5 年度～ 9 年度）
 - インターネットパドック解説：事業費 90 百万円（令和 5 年度～ 9 年度）
- ・地域社会から愛され親しまれる川崎競馬場を確立し、競馬事業への理解醸成のため公益性に関する広報や、お客様に安心して競馬を楽しんでいただくためのギャンブル等依存症対策を更に推進する。
 - 県畜産物の普及啓発のため、協賛レースの実施や畜産関連品のファンサービス提供など、畜産会との連携した取組：事業費 20 百万円（令和 5 年度～ 9 年度）
 - 流鏝馬騎射式やミニチュアホースとのふれあいイベントなど、伝統的馬事文化への取組：事業費 15 百万円（令和 5 年度～ 9 年度）

（3）お客様の利便性の向上

- ・お客様への適時適切な情報提供の維持・強化のため、世界最大級の大型映像設備（ドリームビジョン）等の更新を行う。
 - ナイター照明設備の更新：事業費 250 百万円（令和 5 年度）
 - ドリームビジョン躯体等の更新：事業費 3,000 百万円（令和 7 年度）
 - パドックビジョン躯体等の更新：事業費 145 百万円（令和 8 年度）
- ・地方競馬公式のインターネット投票システムである「SPAT4」の安定的な運用及び投票時の操作性・視認性の向上のためのシステム更新を行う。
- ・お客様が楽しめる競走の充実を図るため、競走馬の格付けや競走距離等に応じた魅力的な番組編成を実施する。

※ 上記の施設整備や競馬事業等については、現在検討中の事業もあるため、実施時期、期間、事業費等を変更する場合がある。

第 5 今後の施設整備の見通し

年度	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7	令和 8	令和 9
総施設数 (a)	53	54	54	54	52	48	47
耐用年数超過施設数 (b)	26	28	28	28	26	20	15
(割合) (c)=(b)/(a)	49.1%	51.9%	51.9%	51.9%	50.0%	41.7%	31.9%

石川県における経営基盤強化に向けた取組と見通し

第1 基本的な考え方

金沢競馬では、平成11年から23年にかけて売上の低迷により厳しい経営状況が続いたものの、これまでの競馬活性化計画による取組に加え、インターネットを利用した在宅投票の増加による売上増もあり、経営改善は着実に進んでいる。

一方、これまで先送りしてきたきゅう舎地区の整備に令和4年度から取りかかったところであり、きゅう舎関係者の環境整備を推進するため、更なる売上増に向けた取組が喫緊の課題となっている。

このため、有識者から構成される金沢競馬経営評価委員会による意見、提案を踏まえ、更なる振興策に取り組んでいるところである。

令和5年度からは通年での薄暮レースの実施や、動画配信の強化等による新規ファンの獲得、日本中央競馬会及び地方競馬主催者との相互連携の促進により売上増を目指すとともに、他場レースの発売数を増やすなど、収入確保に努める。

また、来場促進に向けた取組として、女性や若者、ファミリーにも多く来場していただける競馬場を目指し、敷地内を完全分煙化するなど、場内美化に努めるとともに、コロナ感染拡大防止対策を徹底した上で、芝生広場の活用や場内イベントの実施などファンサービスの向上に取り組む。

「強い馬づくり」については、賞金・手当の増額により競走馬確保と競走馬の質の向上を促す。

また、きゅう舎の整備・改修による環境整備の充実を図り、きゅう舎関係者の人材確保に努めるとともに、重賞体系を整備し、各カテゴリーの有力馬を育成し、将来のダートグレード競走入着馬クラスの馬の育成を目指す。

公正確保の徹底については、監視カメラ等の施設整備、専門職員の育成と確保に努めることにより、不祥事案の発生防止を図る。

第2 目標

石川県は、きゅう舎・調教施設の計画的な整備等による強い馬づくりと競走体系の整備を進め、お客様に楽しんでいただける魅力あるレースを実施するなど地方競馬の活性化に資する方策に他の競馬場とも連携して取り組むことで売得金を向上させ、事業収支の改善を図るとともに、不測の事態等にも備えて経営基盤を強化する。

その上で、競馬活性化計画期間を通じて継続的に一般会計に繰出を行い、令和9年度の繰出額を売得金の0.04%以上とすることを目標とする。

第3 競馬事業に関する経営基盤の強化の程度を示す指標

令和3年度（JBC金沢3競走を除く）の事業収支状況等を基に、計画目標年度となる令和9年度に次の指標を達成するものとする。

- ① 売得金（場間場外及び電話・インターネット投票も含めた全体の売上）を、計画目標年度において対前年度比平均2.0%以上向上させるとともに、継続的に1,000万円の収益額を確保（令和9年度で125%以上向上）
- ② 施設整備を計画的に実施し、耐用年数超過割合を29ポイント以上低減
- ③ 不測の事態等に備え、競馬を再開するまでに必要な経費として活用可能な基金、

繰越金等（3か月分の競馬事業支出の固定経費相当額以上）を確保

第4 目標達成に向け実施する主な取組

1 競走体系の整備など競走の魅力を高めるために必要な措置

- ① 各カテゴリーの全日本的なダートグレード競走につながるよう、金沢市が主催する競走と連携して競走体系を整備する。
 - 古馬の競走体系を整備するため、重賞競走において競走距離や開催時期を見直し年間を通した競走体系を確立する。
 - 短距離については、春の金沢スプリングカップ競走について1,900mから1,500mに距離を短縮することで、日本海スプリント及び金沢市主催の金沢スプリントカップと併せて短距離路線を整備する。これにより、短距離ダートグレード競走につながる競走として位置付ける。
 - 牝馬競走については、お松の方賞を5月へ移行し、また、春の徽軫（ことじ）賞を1,400mに距離短縮し11月に移行することで、牝馬三冠路線を整備する。
 - 3歳については、MRO金賞を7月から10月へ移行し、春のネクストスター中日本から秋のMRO金賞までの3歳短距離路線を整備する。牝馬競走については、4月のノトキリシマ賞と7月の加賀友禅賞までとし以降は古馬との混合競走へ誘導する。
 - 2歳については、短期間に2歳馬重賞競走が集中していること、ネクストスター金沢が新設されたことを受け、牝馬重賞競走を削減し、新たに石川テレビ杯を設けネクストスター金沢へのトライアル戦と位置づけ有力な2歳馬をネクストスター金沢へ出走させることを図る。また、他重賞競走のローテーション間隔を開けることで出走馬の確保を図る。
- ② 下半期の古馬中距離路線として位置づけられている白山大賞典競走について、より高い国際格付けの取得に向けた環境整備を行う。
 - 現在基準を満たしているレーティング（GⅢ：105）のさらなる向上に向け、優先出走馬への奨励金、特別出走奨励金の付与
 - 賞金の増額
 - 国際きゅう舎の整備
- ③ 主要重賞競走へのトライアル戦として準重賞競走を設定し、重賞競走への有力馬を出走させるための体系を整備する。将来的には重賞賞金の増額、重賞競走の優先出走馬への奨励金、ボーナス賞金等の交付等を検討し優秀な馬の確保と重賞競走のレベルアップを目指すことで競走の魅力アップを図る。

2 地方競馬の活性化に資する事業

(1) 強い馬づくり等による競馬の魅力の向上

- ① 騎手、きゅう務員等、きゅう舎関係者の確保・定着促進を図るため、きゅう舎整備を推進し、飼養環境、作業環境及び住環境の改善等を図るとともに、広報活動を実施する。

また、調教管理技術力向上のため、元JRA調教師を講師に迎え研修を実施する。
- ② 魅力あるレースを提供するため、ダートグレード競走入賞馬クラスの馬づくりと、出走頭数、競走数の確保を目指し、賞金及び配分率、手当及び着外

手当等を見直しする。

- ③ 冬期間休催中から休催明けの競走馬確保対策として、休催期間中引き続き金沢競馬場のきゅう舎内に在きゅうしていた馬に対する手当の支給及び当該馬のクラス分けにおける優遇措置(番組賞金を6割減額)を講ずるとともに、前年在籍馬が休催期間中に他競馬場へ転厩して出走した場合に転厩中の取得賞金の全額をクラス分けの算定から控除する優遇措置を設けることで、前年在籍していた馬が再び金沢競馬へ帰ってくることを誘導する。
- ④ 交流競走の推進を図ることにより競馬の魅力をより高めるため、地方競馬共有の中間滞在きゅう舎の整備など遠方から出走しやすい仕組みを検討するとともに、他場への出走馬に対する出走手当や、他場からの出走馬に対する特別出走手当、特別報奨金及び輸送手当の充実を検討する。

(2) 競馬の魅力の伝達

- ① 航空乗り継ぎによる全国からの誘客に加え、北陸新幹線の開業・延伸による関東・関西及び以遠からの時間距離の短縮により、観光地としての魅力が高い石川がこれまで以上に注目されている中、ユーチューブやニコニコ動画等による全国発信を強化するとともに、SNSで調教等の写真を定期的に発信することにより、全国の競馬ファンに金沢競馬の魅力を発信し、新たなインターネット会員の獲得を図るとともに、来場促進に繋げる。
- ② 中央競馬との相互発売や他地方競馬場交流競走と連携し、競馬の魅力をSNS等を通じて発信していく。
- ③ 女性や若者、ファミリー層の来場促進に向け、屋外喫煙所を設置し敷地内を完全分煙にする等クリーンな競馬場を目指すとともに、場内イベントの実施など更なるファンサービス向上に取り組む。
- ④ 芝生広場を近隣の幼稚園や小学校の遠足の場として活用していただくことや、ポニーの乗馬体験を行うなど、地域に開かれた競馬場として、新たな社会的な価値を生み出し、競馬ファンの裾野の拡大に繋げる。
- ⑤ 畜産振興や地方財政への貢献等を始めとした金沢競馬の役割について、県民の理解を深めるための広報を行う。
- ⑥ ギャンブル依存症に対する注意喚起や、20歳未満の者による勝馬投票券の購入防止を図り、安心して楽しめる競馬場に努める。

(3) お客様の利便性の向上

- ① 新たに整備した照明設備を活用して令和5年度から通年で薄暮競走を実施し、年間を通して開場時間や発走時間を固定化することで、他場発売の機会を拡大し、ファン層の拡大やお客様の利便性の向上を図る。
- ② お客様が楽しめる競走の拡大を図るため、共通基幹システムの安定的・効率的な運用及び新たな技術を取り入れた高度化を行う。

第5 今後の施設整備の見通し

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
総施設数(a)	55	54	52	50	48	46	45
耐用年数超過施設数(b)	45	43	39	35	31	27	24
(割合) (c)=(b)/(a)	82%	80%	75%	70%	65%	59%	53%

第6 競馬事業の収支の状況と今後の見通し

(百万円)

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
競馬事業収入 (a)	28,025	24,362	25,769	25,832	25,697	25,813	25,977
うち売得金 (b)	27,054 [※]	23,508	24,288	24,414	24,541	24,669	24,797
施設整備基金繰入 (c)	13	219	295	295	295	295	316
収入計 (d=a+c)	28,038	24,581	26,064	26,127	25,992	26,108	26,293
競馬事業支出 (e)	27,624	24,211	25,759	25,822	25,666	25,782	25,967
うち施設整備・改修	598	552	1,093	1,170	1,180	1,128	1,086
施設整備基金積立 (f)	400	360	295	295	316	316	316
支出計 (g=e+f)	28,024	24,571	26,054	26,117	25,982	26,098	26,283
単年度収支 (h)=(d)-(g)	14 [※]	10	10	10	10	10	10
繰出 (i)	0	10	10	10	10	10	10
売得金に占める割合(j)=(i)/(b)	0%	0.04%	0.04%	0.04%	0.04%	0.04%	0.04%
3か月分の固定経費相当額 (k)	527	527	640	634	593	580	569
不測の事態に備えた基金、繰越金等 ((k)に充当可能な額)	527	527	640	634	593	580	569

※JBC3競走を除いた売得金は22,018百万円、同単年度収支は4.44百万円

金沢市における経営基盤強化に向けた取組と見通し

第1 基本的な考え方

金沢競馬では、平成11年から23年にかけて売上の低迷により厳しい経営状況が続いたものの、これまでの競馬活性化計画による取組に加え、インターネットを利用した在宅投票の増加による売上増もあり、経営改善は着実に進んでいる。

一方、これまで先送りしてきたきゅう舎地区の整備に令和4年度から取りかかったところであり、きゅう舎関係者の環境整備を推進するため、更なる売上増に向けた取組が喫緊の課題となっている。

このため、有識者から構成される金沢競馬経営評価委員会による意見、提案を踏まえ、更なる振興策に取り組んでいるところである。

令和5年度からは通年での薄暮レースの実施や、動画配信の強化等による新規ファンの獲得、日本中央競馬会及び地方競馬主催者との相互連携の促進により売上増を目指すとともに、他場レースの発売数を増やすなど、収入確保に努める。

また、来場促進に向けた取組として、女性や若者、ファミリーにも多く来場していただける競馬場を目指し、敷地内を完全分煙化するなど、場内美化に努めるとともに、コロナ感染拡大防止対策を徹底した上で、芝生広場の活用や場内イベントの実施などファンサービスの向上に取り組む。

「強い馬づくり」については、賞金・手当の増額により競走馬確保と競走馬の質の向上を促す。

また、きゅう舎の整備・改修による環境整備の充実を図り、きゅう舎関係者の人材確保に努めるとともに、重賞体系を整備し、各カテゴリーの有力馬を育成し、将来のダートグレード競走入着馬クラスの馬の育成を目指す。

公正確保の徹底については、監視カメラ等の施設整備、専門職員の育成と確保に努めることにより、不祥事案の発生防止を図る。

第2 目標

金沢市は、きゅう舎・調教施設の計画的な整備等による強い馬づくりと競走体系の整備を進め、お客様に楽しんでいただける魅力あるレースを実施するなど地方競馬の活性化に資する方策に他の競馬場とも連携して取り組むことで売得金を向上させ、事業収支の改善を図るとともに、不測の事態等にも備えて経営基盤を強化する。

その上で、競馬活性化計画期間を通じて継続的に一般会計に繰出を行い、令和9年度の繰出額を売得金の0.02%以上とすることを目標とする。

第3 競馬事業に関する経営基盤の強化の程度を示す指標

令和3年度の事業収支状況等を基に、計画目標年度となる令和9年度に次の指標を達成するものとする。

- ① 売得金（場間場外及び電話・インターネット投票も含めた全体の売上）を、計画目標年度において対前年度比平均2.0%以上向上させるとともに、収益額を1.6%以上増加
- ② 施設整備を計画的に実施し、耐用年数超過割合を29ポイント以上低減
- ③ 不測の事態等に備え、競馬を再開するまでに必要な経費として活用可能な基金、

繰越金等（3か月分の競馬事業支出の固定経費相当額以上）を確保

第4 目標達成に向け実施する主な取組

1 競走体系の整備など競走の魅力を高めるために必要な措置

- ① 各カテゴリーの全日本的なダートグレード競走につながるよう、石川県が主催する競走と連携して競走体系を整備する。
 - 短距離については、ローテーションの確保により有力馬を出走させるため、7月に施行していた金沢スプリントカップ競走を10月へ移行し、県主催の金沢スプリングカップ（4月）及び日本海スプリント（6月）と併せて一連の短距離路線を整備する。これにより、短距離ダートグレード競走につながる競走として位置付ける。
 - 6月の百万石賞を春の帝王賞へ向かう競走として位置づけ、さらに、トライアル戦として5月に利家盃を実施する。
- ② 主要重賞競走へのトライアル戦として準重賞競走を設定し、重賞競走への有力馬を出走させるための体系を整備する。将来的には重賞賞金の増額、重賞競走の優先出走馬への奨励金、ボーナス賞金等の交付等を検討し優秀な馬の確保と重賞競走のレベルアップを目指すことで競走の魅力アップを図る。

2 地方競馬の活性化に資する事業

（1）強い馬づくり等による競馬の魅力の向上

- ① 騎手、きゅう務員等、きゅう舎関係者の確保・定着促進を図るため、きゅう舎整備を推進し、飼養環境、作業環境及び住環境の改善等を図るとともに、広報活動を実施する。

また、調教管理技術力向上のため、元JRA調教師を講師に迎え研修を実施する。
- ② 魅力あるレースを提供するため、ダートグレード競走入賞馬クラスの馬づくりと、出走頭数、競走数の確保を目指し、賞金及び配分率、手当及び着外手当等を見直しする。
- ③ 冬期間休催中から休催明けの競走馬確保対策として、休催期間中引き続き金沢競馬場のきゅう舎内に在きゅうしていた馬に対する手当の支給及び当該馬のクラス分けにおける優遇措置（番組賞金を6割減額）を講ずるとともに、前年在籍馬が休催期間中に他競馬場へ転厩して出走した場合に転厩中の取得賞金の全額をクラス分けの算定から控除する優遇措置を設けることで、前年在籍していた馬が再び金沢競馬へ帰ってくることを誘導する。
- ④ 交流競走の推進を図ることにより競馬の魅力をより高めるため、地方競馬共有の中間滞在きゅう舎の整備など遠方から出走しやすい仕組みを検討するとともに、他場への出走馬に対する出走手当や、他場からの出走馬に対する特別出走手当、特別報奨金及び輸送手当の充実を検討する。

（2）競馬の魅力の伝達

- ① 航空乗り継ぎによる全国からの誘客に加え、北陸新幹線の開業・延伸による関東・関西及び以遠からの時間距離の短縮により、観光地としての魅力が高い石川がこれまで以上に注目されている中、ユーチューブやニコニコ動画等による全国発信を強化するとともに、SNSで調教等の写真を定期的に発

信することにより、全国の競馬ファンに金沢競馬の魅力を発信し、新たなインターネット会員の獲得を図るとともに、来場促進に繋げる。

- ② 中央競馬との相互発売や他地方競馬場交流競走と連携し、競馬の魅力をSNS等を通じて発信していく。
- ③ 女性や若者、ファミリー層の来場促進に向け、屋外喫煙所を設置し敷地内を完全分煙にする等クリーンな競馬場を目指すとともに、場内イベントの実施など更なるファンサービス向上に取り組む。
- ④ 芝生広場を近隣の幼稚園や小学校の遠足の場として活用していただくことや、ポニーの乗馬体験を行うなど、地域に開かれた競馬場として、新たな社会的な価値を生み出し、競馬ファンの裾野の拡大に繋げる。
- ⑤ 畜産振興や地方財政への貢献等を始めとした金沢競馬の役割について、県民の理解を深めるための広報を行う。
- ⑥ ギャンブル依存症に対する注意喚起や、20歳未満の者による勝馬投票券の購入防止を図り、安心して楽しめる競馬場に努める。

(3) お客様の利便性の向上

- ① 新たに整備した照明設備を活用して令和5年度から通年で薄暮競走を実施し、年間を通して開場時間や発走時間を固定化することで、他場発売の機会を拡大し、ファン層の拡大やお客様の利便性の向上を図る。
- ② お客様が楽しめる競走の拡大を図るため、共通基幹システムの安定的・効率的な運用及び新たな技術を取り入れた高度化を行う。

第5 今後の施設整備の見通し

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
総施設数(a)	55	54	52	50	48	46	45
耐用年数超過施設数(b)	45	43	39	35	31	27	24
(割合)(c)=(b)/(a)	82%	80%	75%	70%	65%	59%	53%

第6 競馬事業の収支の状況と今後の見通し

(百万円)

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
競馬事業収入 (a)	4,124	4,097	4,197	4,297	4,396	4,496	4,596
うち売得金 (b)	4,021	4,030	4,130	4,230	4,329	4,429	4,529
繰越金（施設整備充当分） (c)	0	30	48	50	52	54	56
収入計 (d=a+c)	4,124	4,127	4,245	4,347	4,448	4,550	4,652
競馬事業支出 (e)	4,064	4,077	4,193	4,293	4,392	4,492	4,592
うち施設整備・改修	89	72	147	158	159	152	146
施設整備基金積立 (f)	0	0	0	0	0	0	0
支出計 (g=e+f)	4,064	4,077	4,193	4,293	4,392	4,492	4,592
単年度収支 (h)=(d)-(g)	59	50	52	54	56	58	60
繰出 (i)	0	2	2	2	2	2	2
売得金に占める割合 (j)=(i)/(b)	0%	0.05%	0.05%	0.05%	0.05%	0.05%	0.04%
3か月分の固定経費相当額 (k)	71	71	86	85	80	78	77
不測の事態に備えた基金、繰越金等 ((k)に充当可能な額)	71	71	86	85	80	78	77

岐阜県地方競馬組合における経営基盤強化に向けた取組と見通し

第1 基本的な考え方

岐阜県地方競馬組合は、平成25年度第2期競馬活性化計画への取組以降、ネット販売の増加等に支えられ、勝馬投票券の売上は顕著に増加してきた。

しかし、令和2年度に発覚した厩舎関係者による馬券購入事案や所得税申告漏れ事案といった不適切事案による8ヶ月もの競馬開催自粛により、令和3年度は大きな歳入不足となり、基金の取り崩しとともに、施設整備計画の見直しや配分金の見送りも行うこととなった。

令和4年度は、コロナ禍以降の継続した好調な馬券販売の背景等を踏まえ、強い馬づくりに資すると共に当組合最大の課題となっている放馬リスクの低減に最も効果的な厩舎の移転集約への第一歩としてモデル厩舎の建設に着手し、併せて平成4年度以来30年ぶりの配分金を計上し、地方財政への貢献を図ることとしている。

第4期競馬活性化計画に取り組みることとなる令和5年度からは、公正確保の一層の徹底を図りつつ、より確実な放馬対策にも取組みながら、共通基幹システムの維持・高度化や長年の懸案である老朽化施設の再整備等を着実に推進し、厩務環境の向上による人材の確保と在厩馬の増頭に繋げて強い馬づくりに取り組むと共に、賞典奨励費の抜本的な見直し増額やファンの関心を高めるような番組編成に努め、笠松競馬の魅力の向上を図る。

笠松競馬は、コンプライアンス及び放馬事故防止の徹底を図ることにより、お客様や地域の信頼確保を図り、活性化に向けての各種取り組みや魅力ある競馬開催により売上を向上させて経営基盤の強化を図り、畜産振興や地方財政への寄与という地方競馬場としての役割を果たしていく。

第2 目標

岐阜県地方競馬組合は、厩舎・調教施設の計画的な整備等による強い馬づくりと競走体系の整備を進め、お客様に楽しんでいただける魅力あるレースを実施するなど地方競馬の活性化に資する方策に連携して取り組むことで売得金を向上させ、事業収支の改善を図ると共に、不測の事態等にも備えて経営基盤を強化する。

その上で、競馬活性化計画期間を通じて継続的に配分を行い、令和9年度の配分額を売得金額の0.4%以上とすることを目標とする。

第3 競馬事業に関する経営基盤の強化の程度を示す指標

令和4年度（※）の事業収支状況等を基に、計画目標年度となる令和9年度に次の指標を達成するものとする。

※令和3年度は長期間の競馬開催自粛を行ったため令和4年度を基準とする。

- ① 売得金（場間場外及び電話・インターネット投票も含めた全体の売上）を対前年度比平均2%以上向上させ、収益額については、令和9年度において1億9千万円以上（3倍以上）を確保する。

- ② 施設整備を計画的に実施し、耐用年数超過割合を4.5ポイント以上低減
- ③ 不測の事態等に備え、競馬を再開するまでに必要な経費として活用可能な基金、繰越金等（3か月分の競馬事業支出の固定経費相当額以上）を確保

第4 目標達成に向け実施する主な取組

1 競走体系の整備など競走の魅力を高めるために必要な措置

将来の国際格付けの取得を見据え、まずはダートグレード競走実施に向けて、重賞競走を増設拡充して魅力向上を図り、入厩促進と所属馬の資質向上を図る。

- ・ 2、3歳馬ダート短距離路線競走体系の整備として、2歳短距離重賞競走「ネクストスター笠松」を新設し、スターホースの輩出をめざす。
- ・ 繁殖馬の確保に繋がる牝馬競走の活性化を図るため、3歳以上牝馬重賞競走を新設するとともに、4歳以上牝馬対象の重賞競走「ブルーリボンマイル」も新設し、交流競走への参加基盤を整備する。
- ・ 他場有力馬の出走促進による魅力向上を図るため、特別出走奨励金や輸送手当の拡充や着外手当の充実とともに、賞金の増額や賞金配分率の見直しを進める。

2 地方競馬の活性化に資する事業

(1) 強い馬づくり等による競馬の魅力の向上

厩舎の本場周辺への移転集約整備を着実に推進し、厩務員等の住環境整備や執務環境の向上を図るとともに放馬事故防止対策を確実に推進し、併せて賞金や手当等の充実を進めて人材確保と管理馬の増頭に繋げ、強い馬づくり環境の整備を行う。延いてはより魅力ある番組編成が可能な競馬場をめざす。

- ・ 賞典奨励費や厩務員手当の増額見直し及び賞金配分率の見直し
- ・ 新人騎手確保を図るため、安定した生活基盤の確保が図られるよう一定期間の生活支援金支給制度の新設や馬具類の調達等資材購入支援策を拡充
- ・ 厩舎再整備に合わせ購買補助金の段階的拡充により2歳馬の入厩促進
- ・ 中央競馬指定交流競走出走奨励のための輸送費支援や他場出走前の全休日に行う調教のための円城寺厩舎と本場の間の輸送費支援

(2) 競馬の魅力の伝達

新たなファンの確保に繋げるため、より効果的な広報を戦略的に展開するとともに、地域に喜ばれる畜産フェアなどのイベント併催により、親しまれる競馬場をめざす。

- ・ 岐阜市と名古屋市にも近く、私鉄最寄駅も近いといった地の利を活かし、来場者促進に繋がるような各種ノベルティのプレゼントやイベントの実施とメディアへの露出拡大による効果的な広報の展開
- ・ インターネットホームページの改修（ネットユーザーの利便性向上に向けたスマートフォンでも閲覧しやすい画面等）による効果的な情報発信
- ・ 畜産振興に寄与するイベント（畜産フェア等）の併催

- ・ネットユーザーの拡充を図るため、関係事業者等と連携した県産品プレゼント等各種キャンペーンの展開
- ・地域理解を一層深化させるため、地域イベント会場等として走路などの開放や環境等に配慮した馬糞処理の確立（SDGsの推進）
- ・認知度向上を図るため地元プロスポーツチームによる周知活動の展開
- ・輩出名馬を活用した各種コラボイベント等の開催

(3) お客様の利便性の向上

ファンの意見等に真摯に対応するなど、より利便性の向上を図り、来場者が安心して競馬に親しみ楽しめる競馬場環境をめざす。

- ・共通基幹システムの維持と高度化
- ・新札対応やキャッシュレス機への移行も視野に入れた計画的な発券機等の更新による馬券発売環境の充実整備
- ・特別観覧席券売機の更新等による発券時間の短縮
- ・来場者施設内のWi-Fi環境の充実

第5 今後の施設整備の見通し

	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
総施設数(a)	166	165	168	171	170	151	79
耐用年数超過施設数(b)	157	156	155	149	135	116	39
(割合)(c)=(b)/(a)	94.6%	94.5%	92.3%	87.1%	79.4%	76.8%	49.4%

第6 競馬事業の収支の状況と今後の見通し

(百万円)

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
競馬事業収入 (a)	21,760	43,528	45,132	46,325	47,045	47,099	48,048
うち売得金 (b)	21,328	42,853	43,710	44,584	45,475	46,384	47,314
施設整備基金繰入 (c)	589	311	886	1,513	1,394	753	578
収入計 (d=a+c)	22,349	43,839	46,018	47,838	48,439	47,852	48,626
競馬事業支出 (e)	22,362	42,942	44,487	46,541	47,199	46,386	47,217
うち施設整備・改修	131	675	1,373	2,601	2,291	777	601
施設整備基金積立 (f)	0	840	1,417	1,164	1,088	1,295	1,219
支出計 (g=e+f)	22,362	43,782	45,904	47,705	48,287	47,681	48,436
単年度収支 (h)=(d)-(g)	▲13	57	114	133	152	171	190
分配・繰出・債務返済 (i)	0	57	114	133	152	171	190
売得金に占める割合 (j)=(i)/(b)	- %	0.1%	0.3%	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%
3か月分の固定経費相当額 (k)	1,438	2,324	2,534	2,570	2,640	2,639	2,707
不測の事態に備えた基金、繰越金等 (k)に充当可能な額	1,438	2,324	2,534	2,570	2,640	2,639	2,707

愛知県競馬組合における経営基盤強化に向けた取組と見通し

第1 基本的な考え方

愛知県競馬組合では、2022年（令和4年）4月に名古屋市港区から弥富市へ競馬場を移転したが、移転後も続く大型事業（新場外馬券発売所、調教関係者住宅及び老朽化厩舎の整備）、人馬確保のための賞金及び諸手当の増額などに必要な資金を安定的に確保していくことが課題である。

こうした課題に対応するためには、経営基盤の強化が不可欠である。経営基盤強化のため、「強い馬づくり」による競馬の魅力向上を図るとともに、より魅力的な映像を提供することにより在宅投票をするお客様の増加を推進するなどし、売上の増加を図っていく。

そこで、長期的な視点に立った厩舎関係施設や調教施設の整備により「強い馬づくり」に取り組むとともに、競走体系の整備にも取り組むことで、魅力あるレースの展開を目指し、公正確保の徹底を図ることで、安心して競馬を楽しんでいただける環境の構築とおお客様の信頼を確保する。その上で、売上の向上と収益の確保による安定的な経営基盤を確立し、競馬の開催を通じた畜産振興や地方財政への寄与という役割をしっかりと果たしていく必要がある。

第2 目標

愛知県競馬組合は、厩舎・調教施設の計画的な整備等による強い馬づくりと競走体系の整備を進め、お客様に楽しんでいただける魅力あるレースを実施するなど地方競馬の活性化に資する方策に連携して取り組むことで売得金を向上させ、事業収支の改善を図るとともに、不測の事態等にも備えて経営基盤を強化する。

その上で、競馬活性化計画期間を通じて継続的に分配を行い、令和9年度の分配額を売得金額の2%以上とすることを目標とする。

第3 競馬事業に関する経営基盤の強化の程度を示す指標

令和3年度の事業収支状況等を基に、計画目標年度となる令和9年度に次の指標を達成するものとする。

- ① 売得金（場間場外及び電話・インターネット投票も含めた全体の売上）を対前年度比平均3.2%以上向上させ、収益額を27億円以上確保
- ② 施設整備を計画的に実施し、耐用年数超過割合を70ポイント以上低減
- ③ 不測の事態等に備え、競馬を再開するまでに必要な経費として活用可能な基金、繰越金等（3か月分の競馬事業支出の固定経費相当額以上）を確保

第4 目標達成に向け実施する主な取組

- 1 競走体系の整備など競走の魅力を高めるために必要な措置
 - ・全日本的なダート競走体系の整備の一環として、令和6年より「かきつばた記念」の実施時期を5月から2月末に移行し、トライアル競走である「梅見月杯」の施行距離を2,000メートルから1,500メートルに変更する。また、負担重量区分をハンデキャップからグレード別定に変更し、「かきつばた記念」を上半期の短距離路線として「かしわ記念」や「さきたま杯」につながる競

走として整備する。

- ・令和6年より「名古屋グランプリ」の実施時期を12月から5月に移行し、トライアル競走である「東海桜花賞」の施行距離を1,500メートルから2,100メートルに変更するなどし、上半期の頂点競走である「帝王賞」につながる競走として整備する。
- ・令和6年より「名古屋大賞典」の実施時期を3月から12月に移行し、トライアル競走である「東海菊花賞」の施行距離を2,100メートルから2,000メートルに変更し、負担重量区分をグレード別定からハンデキャップに変更することで、各出走馬に勝つチャンスを与え、魅力ある競走として実施する。
- ・ネクストスター等の重賞級認定競走を実施し、ダート短距離路線の整備として、賞金面での魅力の向上を図り、名古屋競馬への入厩促進と競走馬の資質向上を目指す。
- ・ダートグレード競走のより高い国際格付けの取得に向け、国際厩舎の整備や出走奨励金、報奨金等の増額に努め、自地区だけでなく、他地区の有力馬の出走奨励策を推進し、「名古屋グランプリ」については令和9年度までにはレースレーティングを110以上、令和6年度には1着賞金4,000万円、「かきつばた記念」と「名古屋大賞典」については、令和9年度までには105以上、令和6年度には1着賞金3,000万円を目指す。

2 地方競馬の活性化に資する事業

(1) 強い馬づくり等による競馬の魅力の向上

- ・厩舎関係者を確保するため、安定的な生活を営める住環境整備を実施：事業費13億円
(令和5年度～令和6年度)
- ・馬資源の確保のため、厩舎整備を実施：事業費80億円
(令和6年度～令和9年度)
- ・転入条件の見直しや番組要綱の格付条件等の改正を検討し、高質で拮抗した競馬の提供を目指す。
- ・調教技術向上のため、競走馬に直接接触し、強い馬づくりを担う厩務員に対し、座学による競走馬の知識向上や育成牧場等の視察、外部講師を招聘した調教方法等の講習会を主催者又は厩務員会で実施する。
- ・競走馬の資質向上のため、練習走路の馬場整備や厩舎地区の馬道改修等調教施設の改修：事業費10億円（令和6年度～令和9年度）
- ・強い馬づくりを促進するため、日本中央競馬会が実施する指定交流競走に出走する愛知県所属馬について、馬主、調教師、調教師補佐、騎手及び厩務員に対し、奨励金を交付する。

(2) 競馬の魅力の伝達

- ・中央競馬との相互発売の推進を図るため、地方競馬全国協会との連携により、効果的かつ効率的な共同広報を実施
- ・地方競馬のファン層の拡大を図るため、新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら、来場者への名古屋競馬オリジナルグッズの提供等による来場促進策を実施
- ・地域に根差した親しまれる競馬場を目指すため、地元団体等と協力し、イベ

ント広場を利用したパークフェスタや金シャチけいば夏まつりなどのイベントを開催

- ・お客様に安心して競馬を楽しんでいただくため、ギャンブル等依存症に関するポスター掲示やビジョン等での啓発、公式ホームページでの周知等によるギャンブル等依存症対策の更なる推進
- ・発売額が減少傾向となる夏期期間中の売上向上を図るため、午前発走の競走の3連単払戻率を77.7%とする「名古屋モーニングフィーバー」を実施

(3) お客様の利便性の向上

- ・お客様への適時適切な情報提供の維持・強化のため、共通基幹システムの安定的かつ効率的な運用
- ・お客様が楽しめる競走の拡大を図るため、主催者間調整による、発走時刻の重複回避の取組や開催場数の適正化等の実施
- ・お客様の利便性向上のため、公式ホームページや SNS を利用し、レースやイベントなどの名古屋競馬の情報を積極的に提供
- ・在宅投票をするお客様の増加に向け、インターネットを通して、レースだけではなく、パドックに特化した映像配信等、多角的な視点による映像提供の更なる充実

第5 今後の施設整備の見通し

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
総施設数 (a)	84	84	84	84	84	84	84
耐用年数超過施設数 (b)	64	63	63	52	41	30	4
(割合) (c)=(b)/(a)	76.2%	75.0%	75.0%	61.9%	48.8%	35.7%	4.8%

第6 競馬事業の収支の状況と今後の見通し

(百万円)

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
競馬事業収入 (a)	65,153	71,242	71,891	73,311	74,759	76,236	77,743
うち売得金 (b)	63,271	69,599	70,991	72,411	73,859	75,336	76,843
施設整備基金繰入 (c)	9,295	2,557	3,500	1,900	1,900	1,000	1,000
収入計 (d=a+c)	74,448	73,799	75,391	75,211	76,659	77,236	78,743
競馬事業支出 (e)	71,188	69,063	72,391	73,206	74,753	74,830	76,037
うち施設整備・改修	9,736	2,559	4,800	3,525	3,525	3,525	3,525
施設整備基金積立 (f)	3,382	4,400	2,500	400	0	0	0
支出計 (g=e+f)	74,570	73,463	74,891	73,606	74,753	74,830	76,037
単年度収支 (h)=(d)-(g)	▲122	336	500	1,605	1,906	2,406	2,706
分配・繰出・債務返済 (i)	0	336	500	700	1,000	1,500	1,800
売得金に占める割合 (j)=(i)/(b)	0%	0.48%	0.70%	0.97%	1.35%	1.99%	2.34%
3か月分の固定経費相当額 (k)	3,623	3,623	3,623	3,623	3,623	3,623	3,623
不測の事態に備えた基金、繰越金等 (k)に充当可能な額	0	0	0	905	1,811	2,717	3,623

兵庫県競馬組合における経営基盤強化に向けた取組と見通し

第1 基本的な考え方

兵庫県競馬組合では、近年、競馬活性化計画による取組・地方競馬間での連携が奏功。且つコロナ禍における在宅投票による売上増も寄与し、経営改善は着実に図られている。

しかし、長期的視点に立った厩舎関係施設や調教施設の整備といった中央競馬に比肩する強い馬づくりのための施策はまだ不十分であることから、競走体系の整備や国際化と併せて取組を進めることで魅力あるレースを展開するとともに、それらの礎となる馬産地にも還元される競馬運営を目指す。

施設整備に関しては、今まで先送りにしてきた部分も多く、長期的展望を持ち厩舎関係施設や調教施設の整備を計画、今後より一層の取組を行っていく必要がある。

さらに、公正確保の徹底を図るとともに、ギャンブル等依存症対策にも取り組むことによりお客様の信頼を確保し、安心して競馬を楽しんでいただける環境を構築する必要があると考えている。

その上で、売上の向上と収益の確保による安定的な経営基盤を確立し、競馬の開催を通じた畜産振興や地方財政への寄与という役割をしっかりと果たすように、今後も推進する。

個別の取組としては、2・3歳短距離路線の整備・古馬牝馬路線の整備により、競走の魅力の向上を高める事を目標とし、今後も収支改善及び施設の改善に向けた取組を行う。

第2 目標

兵庫県競馬組合は、厩舎・調教施設の計画的な整備等による強い馬づくりと競走体系の整備を進め、お客様に楽しんでいただける魅力あるレースを実施するなど地方競馬の活性化に資する方策に連携して取り組むことで売得金を向上させ、事業収支の改善を図るとともに、不測の事態等にも備えて経営基盤を強化する。

その上で、競馬活性化計画期間を通じて継続的に分配を行い、令和9年度の分配額を売得金額の0.4%以上とすることを目標とする。

第3 競馬事業に関する経営基盤の強化の程度を示す指標

令和3年度の事業収支状況等を基に、計画目標年度となる令和9年度に次の指標を達成するものとする。

- ① 売得金（場間場外及び電話・インターネット投票も含めた全体の売上）を対前年度比平均2.0%以上向上させ、収益額を52%以上増加
- ② 施設整備を計画的に実施し、耐用年数超過割合を12ポイント以上低減
- ③ 不測の事態等に備え、競馬を再開するまでに必要な経費として活用可能な基金、繰越金等（3か月分の競馬事業支出の固定経費相当額以上）を確保

第4 目標達成に向け実施する主な取組

- 1 競走体系の整備など競走の魅力を高めるために必要な措置

- ・「全国的なダート競走の体系整備」に伴い、兵庫チャンピオンシップ(JpnⅡ)の競走距離を1,870mから1,400mに変更し、3歳春の短距離路線の頂点として実施。今後、競走内容の向上を図ることを目的として、有力馬が集結するような競走体系の整備、良質馬の入厩促進を行い、計画期間中にはJpnⅠへの昇格を目指す。
- ・全国的な競走体系を構築する観点から、他場で実施されていたTCCK女王盃(JpnⅢ)の実施場を園田競馬場へ変更するとともに、レース名称を兵庫女王盃(JpnⅢ)に改め、併せて、実施時期(1月→4月上旬)・競走距離(1,800m→1,870m)を変更し、西日本唯一の古馬牝馬路線として実施する。今後は、エンプレス杯の前哨戦として重要な位置づけとなることから、競走価値の維持向上に取り組んでいく。・兵庫で実施されるダートグレード競走全てにおいては、10年後にはより高い国際格付け取得を目指し、国際競走を実施するための厩舎の整備にも取り組んでいくとともに、賞金の基準や競走内容(レーティング)の基準を達成するため、馬資源の充実と競走内容の向上に向けた施策に取り組んでいく。
- ・令和5年度以降においては、これらの全国的な競走体系の開始に向け、重賞競走の新設・条件等の見直しなど、目標達成に向けた施策に取り組んでいく。兵庫チャンピオンシップに向けた取り組みとしては、短距離に適性がある高資質馬の入厩促進を目的とし、2歳秋には高額賞金の重賞級認定競走ネクストスター園田(地元馬限定)を新設する。
兵庫女王盃に向けた取り組みとしては、地元有力馬を集結させる目的として、1月上旬に地元重賞のコウノトリ賞(古馬牝馬)を新設予定。

2 地方競馬の活性化に資する事業

(1) 強い馬づくり等による競馬の魅力の向上

- ・「新馬購入補助事業費」を増額し、良質な2歳馬の入厩促進及び地元デビュー馬からのスターホース輩出を目指す。
- ・有力馬が集結する質の高く魅力的な競走を実現するため、奨励金・褒賞金等の付与による出走奨励策を充実させ、他場有力馬の誘致及び自場有力馬の他場遠征の促進を行う。
- ・遠方に遠征する場合において、馬の輸送負担を軽減させ、万全な状態で出走できるよう滞在厩舎の整備など、遠方から出走しやすい仕組みについて、今後検討していく。
- ・調教技術向上の為の講習会を開催予定
- ・調教施設の改修整備を行い、より強い馬を育成できる環境整備を行う。
- ・厩舎関係者の住環境の整備、賞典奨励費の増額を行い厩舎関係者の人材を確保する。
(きゅう務員住宅整備 事業費：約10億円(令和5年度～6年度))
- ・厩舎整備による強い馬づくりを推進する。
(厩舎整備 事業費：約50億円(令和5年度～9年度))

(2) 競馬の魅力の伝達

- ・アフターコロナに向け、周辺住民や競馬ファンに馬とのふれあいや騎手と交流イベントとして、「そのだ競馬フェスティバル」を実施し、幅広い年代層に

競馬や馬の魅力をアピールする。

- ・牝馬戦実施日に女性ファンの来場促進のためのファンサービスやイベント等を実施する。
- ・通常走ることの出来ないダートコースで、新型コロナウイルス感染症対策に留意した上で、マラソンイベントを実施し競馬場への来場機会をつくることにより新規ファンを開拓する。
- ・中央競馬会と連携し、近隣のJRA施設（阪神競馬場、ウインズ梅田・難波等）でのトークショー等のイベント実施により、JRAファンに「地方競馬ならではの」魅力をアピールし、ファンの拡大を目指す。
- ・中央競馬、地方競馬双方のファンへ効果的かつ効率的な共同広報を実施する。
- ・2025年の大阪万博に向け旅行会社等と連携し、関西唯一のナイト競馬や間近での迫力あるダート競馬の観戦ツアー等をギャンブル等依存症対策等に配慮し実施する。
- ・競馬が畜産振興にも寄与していることをPRするため、近畿圏を中心とした畜産関係団体と畜産フェア等を実施する。
- ・阪神間を中心とした商工会等と協力し、新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら地域特産物の販売イベントや協賛競走を実施することにより、地域の活性化を図るとともに、競馬ファンや新規ファンの来場促進を図る。
- ・インターネット投票を中心とした競馬ファンへの情報提供の拡大を図るため、ユーチューブを利用した、「予想番組」「レース実況」の配信等の充実と、さらに、能力検査の映像配信等の新たな取り組みを行い、在宅投票会員を増やす。
- ・そのだ・ひめじ競馬のWEBマガジンを再構築し、競馬にかかわる情報提供のさらなる充実を図る。
- ・ダートグレード競走の3歳短距離路線を中心としたダート競馬の価値向上を図るため、効率的で効果的な共同広報等を実施する。
- ・中央競馬・地方競馬での通算2000勝以上のベテランジョッキーを一堂に会し、ファンに一流ジョッキーの騎乗技術を楽しんでもらえる騎手招待競走を実施する。

(3) お客様の利便性の向上

- ・JRA施設を利用した都市圏の場外発売所において、地方競馬ナイト競馬の発売を行うことにより現金系でのライトファン層の購買機会の拡大を図る。
- ・関西圏を中心に、競馬の場外発売所の無い新規の商圈にナイト発売が可能な新規場外発売所を設置することにより、新たなファンの獲得を目指す。
- ・アフターファイブの競馬を楽しんでもらうため、夏場を中心に通常開催より発走時刻を2時間程度遅くした競走を実施する。
- ・ポイントカードや入場回数券等バラバラに実施していたファンサービスをキャッシュレスカードに統合し、さらなるファンサービスの向上を図る。
- ・令和6年に発行予定の新紙幣に対応するため端末改修などを実施する。
- ・令和4年度導入した自動発売機に馬券購入時の利便性を向上のためQRコードユニットを追加する。
- ・パドックの大型表示装置を更新し、馬券購入のための情報提供等の充実を図る。

高知県競馬組合における経営基盤強化に向けた取組と見通し

第1 基本的な考え方

高知競馬は、長年にわたる売上の低迷により厳しい経営状況が続き廃止寸前まで至ったものの、平成20年度の福山競馬との連携による全国広報、平成21年の通年ナイター設備の設置及び開催日程の調整、平成24年度のJRAインターネット投票による地方競馬の発売開始など、これまでの競馬活性化計画の取組により経営状況は年々改善に向かい、近年ではコロナ禍におけるいわゆる巣ごもり需要に支えられた在宅投票により売上が大幅に伸び、令和3年度は過去最高となり6年連続して売得金額を記録するなど、経営改善は着実に進んでいる。

こうした、売得金の増に伴い賞典奨励費の増額や老朽化したファンエリア等の施設整備は順調に進めている一方、経営難から先送りにしてきた厩舎関係施設や業務施設等については、ファンエリア同様に老朽化が進んでおり、競馬事業を将来に渡って維持・継続していくためには、今後計画的に施設整備を行っていく必要がある。また、収益金を継続して構成団体に分配していくためには、共通基幹システムの維持・高度化や施設整備等を適切に行った上で、「強い馬づくり」による競馬の魅力向上を図り売上を伸ばしていくこと、併せて、これまで経費削減のため縮小してきた運営母体である「高知県競馬組合」の組織や体制を再構築し、運営スタッフの充実を図るなど経営基盤の強化が不可欠である。

他方、中央競馬に比肩する「強い馬づくり」については、賞金・諸手当の充実など様々な取組や関係者の協力により在厩馬頭数や新規2歳馬登録頭数は増加傾向で推移しているものの、長期的視点に立った厩舎関係施設や調教施設の整備といった施策はまだ緒に就いたばかりである。このため、競走体系の整備や国際化に取り組み、魅力あるレースを展開するとともに、それらの基礎となる馬産地にも還元される競馬運営を目指す方向性が示されている。

さらに、公正確保の徹底を図るとともに、ギャンブル等依存症対策にも取り組むことによりお客様の信頼を確保し、安心して競馬を楽しんでいただける環境を構築する。その上で、競馬の開催を通じた畜産振興や地方財政への寄与という役割をしっかりと果たすべく、売上の向上と収益の確保による安定的な経営基盤を確立する。

第2 目標 経営基盤の充実・強化と地方財政への貢献

高知県競馬組合は、厩舎関係施設（調教施設を含む）の計画的な整備等による強い馬づくりと競走体系の整備を進め、お客様に楽しんでいただける魅力あるレースを実施するなど地方競馬の活性化に資する方策に連携して取り組むことで売得金を向上させ、事業収支の改善による安定的な事業運営を図るとともに、不測の事態等にも備えて経営基盤を充実・強化する。

その上で、競馬活性化計画期間を通じて継続的に構成団体への分配・繰出を行い、令和9年度における分配・繰出額を売得金額の1.5%以上とすることを目標とする。

第3 競馬事業に関する経営基盤の強化の程度を示す指標

令和3年度の事業収支状況等を基に、計画目標年度となる令和9年度に次の指標を達成するものとする。

- ① 売得金（場間場外及び電話・インターネット投票も含めた全体の売上）を対前年度比平均 2.0%以上向上させ、収益額を 11.3%以上増加
- ② 施設整備を計画的に実施し、耐用年数超過割合を 16.8 ポイント以上低減
- ③ 不測の事態等に備え、競馬を再開するまでに必要な経費として活用可能な基金、繰越金等（3 か月分の競馬事業支出の固定経費相当額以上）を確保

第 4 目標達成に向け実施する主な取組

1 競走体系の整備など競走の魅力を高めるために必要な措置

- ① 競走体系の整備等により有力馬同士が対戦する魅力的な競走を実現するため、ダートグレード競走及び主要競走の日程調整、賞金増額や奨励金付与等による出走奨励策等を実施する。
 - ・地区重賞級認定競走「ネクストスター西日本」に繋がる、「ネクストスター高知」を新設し、2 歳馬の競走体系を整備
 - ・地方交流牝馬重賞競走の「レジーナディンベルノ賞」の新設：事業費 1.2 億円（令和 5 年度～9 年度）
 - ・交流競走への有力馬出走奨励策
- ② 国際的な評価基準に適う競走の質の確保を図るため、上半期の古馬短距離路線として位置付けられている黒船賞のより高い国際格付けの取得を推進する。
 - ・賞金等の増額：事業費 1 億円（令和 5 年度～9 年度）
 - ・国際競走とするための国際厩舎の整備：事業費 1 億円（令和 5 年度～6 年度）
 - ・評価基準に適うレースレーティング（GⅢ：105 以上）を確保

2 地方競馬の活性化に資する事業

(1) 強い馬づくり等による競馬の魅力の向上

- ① 馬の競走能力の向上及び国際的な評価基準に適う競走の質の確保を図るため、2 歳馬等の馬資源の確保対策、調教技術向上の取組、厩舎・調教施設の整備等を行う。
 - ・生えぬき馬の導入を促すためのデビュー馬導入促進事業：事業費 8 億円（令和 5 年度～9 年度）
 - ・水捌けの改善など路盤改良を含む本馬場走路の改修：事業費 10 億円（令和 5 年度～9 年度）
 - ・老朽化した施設の改修や馬房増設などの厩舎施設整備：事業費 20 億円（令和 5 年度～9 年度）
 - ・休養施設や調教施設拡充の検討：事業費 20 億円（令和 5 年度～9 年度）
 - ・トレッドミルの活用
 - ・調教技術向上のための講習会の実施
- ② 強い馬づくりに向けた厩舎関係のマンパワー不足解消のため、賞典奨励費の増額、宿舍の整備、社会保障制度整備の支援等による厩舎関係者の確保対策を実施する。
 - ・賞金及び諸手当の増額
 - ・厩務員宿舍の整備など施設改修による労働環境の改善：事業費 5 億円（令和 5 年度～9 年度）
 - ・調教師が負担する社会保険料等への支援によるきゅう務員の確保対策

- ③ 有力馬同士が対戦する魅力的な競走を実現するため、奨励金付与等による出走奨励策等を実施する。
- ・他場への出走馬や他場からの出走馬に対する奨励金の付与などによる交流競走への有力馬出走誘導策：事業費 1 億円（令和 5 年度～9 年度）
 - ・安全かつ円滑な輸送のため大型馬運車対応の積み下ろし施設の整備
 - ・中間調教施設（滞在厩舎等）の整備など遠方から出走しやすい仕組みの検討

（2）競馬の魅力の伝達

- ① 中央競馬との相互発売の推進や我が国のダート競馬の価値向上を図るため、効果的かつ効率的な共同広報等を実施する。
- ② 電話・インターネット投票により競馬を楽しむお客様に向けた情報提供を強化するとともに、地方競馬の新たなファンの獲得を図るため、広告やイベントとのバランスを取りつつ、新型コロナウイルス感染症対策に留意した来場促進等を実施する。
- ・在宅投票の拡充を図るため、各種媒体を活用した情報提供の拡大やインターネットを活用した、多様な競馬の楽しさを伝えるコンテンツ作り
 - ・競馬場内に授乳スペースを設けた屋内キッズスペースの整備：事業費 0.2 億円（令和 5 年度）
- ③ 地域に根差した親しまれる競馬場を目指し、お客様が競馬場で快適に過ごせるようファンエリアの施設整備を行う。さらに、地方競馬への理解醸成のための公益性に関する広報や、お客様に安心して競馬を楽しんでいただくためのギャンブル等依存症対策等を更に推進する。
- ・快適な環境とするための競馬場発売所の屋内化整備
 - ・地域に親しまれる憩いの場とするため、競馬場内に大規模な屋外遊具施設を整備
 - ・上質な観戦環境を提供する競馬場特別観覧席等の整備：事業費 10 億円（令和 5 年度～6 年度）
 - ・ギャンブル等依存症対策：事業費 0.3 億円（令和 5 年度～9 年度）

（3）お客様の利便性の向上

- ① お客様への適時適切な情報提供の維持・強化のため、共通基幹システムの安定的・効率的な運用及び新たな技術を取り入れた高度化を行う。
- ② お客様が楽しめる競走の拡大を図るため、発走時刻の重複回避の取組や主催者間調整による開催場数の適正化等を行う。
- ③ お客様の多様な楽しみ方に合わせて、最新技術を活用した情報提供等を行う。
- ・競馬場内に体感型競馬文化展示エリアを整備：事業費 1 億円（令和 5 年度）
 - ・馬場内大型ビジョン整備：事業費 1 億円（令和 5 年度）
 - ・モバイル端末を活用した中継映像や測位システムで計測したハロントアイムなどの情報提供：事業費 1 億円（令和 5 年度～6 年度）
- ④ キャッシュレス投票システムを活用し、利便性に優れた楽しみ方を提供する。

第5 今後の施設整備の見通し

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
総施設数(a)	60	60	65	64	65	65	65
耐用年数超過施設数(b)	46	46	49	49	45	41	37
(割合) (c)=(b)/(a)	76.7%	76.7%	75.4%	76.6%	69.2%	63.1%	59.9%

第6 競馬事業の収支の状況と今後の見通し

(百万円)

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
競馬事業収入 (a)	95,629	95,081	99,409	101,397	103,425	105,493	107,603
うち売得金 (b)	94,942	94,477	98,777	100,753	102,768	104,823	106,920
施設整備基金繰入 (c)	319	1,679	1,519	1,519	1,519	200	200
収入計 (d=a+c)	95,948	96,761	100,928	102,916	104,944	105,693	107,803
競馬事業支出 (e)	93,068	95,280	99,199	100,758	102,339	103,943	106,870
うち施設整備・改修	1,922	1,414	1,519	1,519	1,519	200	1,500
施設整備基金積立 (f)	2,042	44	1,723	2,158	2,605	885	0
支出計 (g=e+f)	95,110	95,324	100,928	102,916	104,944	104,828	106,870
単年度収支 (h)=(d)-(g)	838	1,436	0	0	0	866	933
分配・繰出・債務返済 (i)	1,281	1,424	1,417	1,482	1,511	1,542	1,572
売得金に占める割合 (j)=(i)/(b)	1.3%	1.5%	1.4%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%
3か月分の固定経費相当額(k)	627	646	665	685	706	727	749
不測の事態に備えた基金、繰越金等 (k)に充当可能な額	627	646	665	685	706	727	749

佐賀県競馬組合における経営基盤強化に向けた取組と見通し

第1 基本的な考え方

これまでのインターネット発売の伸びに加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、巣ごもり需要による在宅投票も売上増を後押しし、佐賀競馬の収益は黒字を継続している。

一方で、今後は、巣ごもり需要が逡減していくことが見込まれることから、競馬の開催を通じた畜産振興や地方財政への貢献という役割を継続的に果たしていくためには安定した経営基盤を確立する必要がある。

そのため、競走体系の整備等による魅力的な競走の実現や、厩舎等施設設備の計画的な整備、素質の高い新馬の導入促進、厩舎関係者の人材確保等による強い馬づくりを行うことで、競馬の魅力を向上させる。

また、佐賀競馬は馬産地である九州に所在する唯一の地方競馬場でもあることから、生産団体との連携等により、馬産地としての認知度向上や佐賀競馬の魅力向上にも取り組み、馬産地の活性化を図る。

これらの取組を効果的・効率的に発信するとともに、快適な観戦環境の整備や、勝馬投票券検討の参考となる情報発信の強化等お客様の利便性向上に取り組むことで、佐賀競馬の活性化を図り、売上向上と収益確保による安定経営を目指していく。

第2 目標

佐賀県競馬組合は、畜産振興や地方財政の改善により一層貢献できるよう、厩舎等施設設備の計画的な整備等による強い馬づくりと競走体系の整備を進め、お客様に楽しんでいただける魅力あるレースを実施するなど地方競馬の活性化に資する方策に連携して取り組むことで売得金を向上させ、事業収支の改善を図るとともに、不測の事態等にも備えて経営基盤を強化する。

そうした取組みにより、競馬活性化計画期間を通じて継続的に構成団体への配分金を配分し、令和9年度の配分金額を売得金額の0.7%以上とすることを目標とする。

第3 競馬事業に関する経営基盤の強化の程度を示す指標

令和3年度の事業収支状況等を基に、計画目標年度となる令和9年度に次の指標を達成するものとする。

- ① 売得金（場間場外及び電話・インターネット投票も含めた全体の売上）を対前年度比平均3.3%以上向上させ、収益額を6億6,400万円以上確保
- ② 施設整備を計画的に実施し、耐用年数超過割合を32ポイント以上低減
- ③ 不測の事態等に備え、競馬を再開するまでに必要な経費として活用可能な基金、繰越金等（3か月分の競馬事業支出の固定経費相当額以上）を確保

第4 目標達成に向け実施する主な取組

- 1 競走体系の整備など競走の魅力を高めるために必要な措置

- ・若齢馬の層に厚みを持たせ、それらの馬が佐賀競馬及び全国の交流競走において好成績を収めることで魅力的な競走を実現するため、重賞級認定競走「ネクストスター佐賀」の新設など、2歳、3歳の競走体系を整備し、地元生え抜きの活躍馬が誕生するステージを構築
- ・佐賀競馬場で実施するダートグレード競走のより高い国際格付け取得に向けて、必要な施設環境の整備の他、賞金の増額、必要なレースレーティングの確保
 - 国際厩舎整備（令和8年度）
 - ダートグレード競走の賞金増額
160方式から170方式へ（600万円、令和5年度）
 - 同競走のレーティング確保
サマーチャンピオン、佐賀記念とも105
 - 同競走でのレーティング奨励金支給の継続拡充
 - 同競走での地方所属及び佐賀所属最先着奨励金支給の継続拡充
- ・他地区所属馬の佐賀競馬交流競走出走及び佐賀所属馬の他地区交流競走出走を促す奨励金の増額（1,757万円、令和5年度）
- ・佐賀所属馬のレーティング獲得に向け、主に南関東地区で実施される交流競走への当日出走可能な滞在厩舎の整備など、佐賀から出走しやすい仕組みの検討

2 地方競馬の活性化に資する事業

（1）強い馬づくり等による競馬の魅力の向上

- ・素質の高い2歳馬デビューを促すため、佐賀県馬主会が行う新馬購入補助事業へ補助金を交付（5,000万円/年、令和5年度～）
- ・九州の馬産地活性化のため、九州産2歳馬の佐賀競馬デビューを促す九州軽種馬協会の事業へ補助金を交付（451万円/年、令和5年度～）
- ・有力馬の確保と優良な飼養環境に資するため、順次新たな厩舎を建設（55,615万円/令和6年度、74,153万円/令和8年度、74,153万円/令和9年度）
- ・騎手及び厩務員の確保対策と住環境整備のため、競馬場に隣接する騎手及び厩務員宿舎を新たに整備（100,733万円、令和6年度）
- ・厩務員の処遇改善に資するため、厩務員の被用者保険への加入促進を目的とする助成制度を創設
- ・競走馬の能力を十分に発揮させるとともに公正安全な競走に資するため、定期的な本走路の砂入替えを実施（7,700万円/年、令和5年度・令和8年度）
- ・入厩頭数の増加にも対応できるようにするとともに馬糞の処理コストの低減を図るため、馬糞の堆肥化施設を整備

（2）競馬の魅力の伝達

①中央競馬、地方競馬主催者間で連携した取組

- ・中央競馬、地方競馬双方の魅力伝達のため、JRA小倉競馬場、佐賀競馬場においてそれぞれの広報活動を行うなど、中央競馬、地方競馬主催者間で共同した広報を実施
- ・地方競馬の魅力伝達及び佐賀競馬と他の地方競馬主催者双方の認知度向上のため、岩手競馬とのファンファーレ、レース名交換をはじめとした他の地方

競馬主催者とのコラボイベントを実施

- ・地方競馬の魅力伝達のため、九州出身の騎手を全国から集めて実施する里帰りジョッキーズカップや、岩手競馬との騎手交流M&Kジョッキーズカップをはじめとした他の地方競馬主催者との騎手交流レースを実施
- ・ギャンブル依存症対策として、依存症に関する知識の啓発、相談窓口の運用等を適切に実施

②その他、個別の取組

- ・地方競馬の魅力伝達、新規顧客やインターネット会員の獲得及び佐賀競馬の認知向上のため、YouTubeによる予想番組生配信、情報番組制作・配信を行うとともに、Twitter等のSNSを活用した佐賀競馬及び地方競馬の魅力の発信
- ・地方競馬の魅力伝達、新規顧客の獲得及び佐賀競馬の認知向上並びに地元特産品及び観光地の紹介を行うことによる地域振興のため、ボートレースびわこ（滋賀県）との「さがしがコラボ」をはじめとした他の公営競技主催者とのコラボイベントの実施及び選手間交流
- ・地域振興及び佐賀競馬の認知向上のため、地元プロスポーツチーム「サガン鳥栖」「久光スプリングス」に協賛を行い、スタジアムの看板掲示をはじめ、マッチデーの実施や協賛競走の実施、選手間交流等のコラボイベント実施
- ・地元住民及び佐賀競馬ファンへの感謝の気持ちを伝えるため、騎手をはじめとした競馬関係者とファンとの交流イベント等を実施するファン感謝デー「さがけいば祭り」の開催
- ・馬産地九州の認知向上及び支援のため、九州軽種馬協会との連携による九州産馬限定競走の実施並びにイベントの実施及びYouTube等インターネットを活用した広報など馬産地九州の情報発信

(3) お客様の利便性の向上

- ・来場されるお客様への快適な観戦環境提供のためのグループボックス席の設置、机・椅子交換及び映像装置の新設・更新といった場内整備
- ・来場されるお客様への快適な観戦環境提供のためのパドックビジョンの新設
- ・インターネット投票でお楽しみのお客様のためのYouTube動画、データコンテンツ充実など勝馬投票券検討の参考となる情報発信の強化
- ・来場されるお客様への勝馬投票券検討の参考となる情報提供の拡充として、専門紙協会と連携した競走情報（フリーペーパー）の配布
- ・インターネット投票でお楽しみのお客様のための勝馬投票券検討の参考となる情報提供の拡充として、専門紙協会と連携した専門紙面をデータ化し掲載を行う競走情報のインターネット配信

第5 今後の施設整備の見通し

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
総施設数(a)	78	82	82	80	80	80	80
耐用年数超過施設数(b)	72	70	70	67	63	59	48
(割合)(c)=(b)/(a)	92.3%	85.4%	85.4%	83.8%	78.8%	73.8%	60.0%

第6 競馬事業の収支の状況と今後の見通し

(百万円)

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
競馬事業収入 (a)	64,021	69,435	71,469	75,177	75,591	77,521	78,262
うち売得金 (b)	63,072	67,367	70,100	73,000	74,500	76,000	76,800
施設整備基金繰入 (c)	0	0	0	0	0	0	0
収入計 (d=a+c)	64,021	69,435	71,469	75,177	75,591	77,521	78,262
競馬事業支出 (e)	61,214	68,320	70,296	73,747	72,882	75,000	75,487
うち施設整備・改修	357	2,625	1,445	2,095	213	1,038	884
施設整備基金積立 (f)	2,894	555	510	738	2,045	1,858	2,111
支出計 (g=e+f)	64,108	68,875	70,806	74,485	74,927	76,858	77,598
単年度収支 (h)=(d)-(g)	▲87	560	663	692	664	663	664
分配(配分金) (i)	560	560	560	560	560	560	560
売得金に占める割合 (j)=(i)/(b)	0.9%	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%	0.7%	0.7%
3か月分の固定経費相当額 (k)	860	860	860	860	860	860	860
不測の事態に備えた基金、繰越金等 (k)に充当可能な額	329	329	430	559	660	760	860